

七尾検定2018

受検対策参考書

能登立国1300年記念 10月28日
のと里山里海ミュージアム オープン



平成30年(2018)11月1日発行

七尾検定実行委員会

【七尾市の姿】

市章



豊かな恵みをもたらす美しい七尾湾の波と頭文字「N」を使って湯けむりと未来・世界へ向けて躍動する市民の姿を表現している。全国から寄せられた2,256作品から、七尾・鹿北合併協議会において、岡山県倉敷市の小谷公次さんのデザインが最優秀賞に選ばれた。

七尾市の花・木・鳥・魚 【平成26年3月25日制定】

花・・・菜の花 木・・・松 鳥・・・カモメ 魚・・・ハチメ

市民のねがい—七尾市民憲章— 【平成18年9月21日制定】

古き歩みを誇りつつ
文化の薫るふるさとに
豊かな未来夢ひらく
なみおだやかに^{あお}碧光り
ななおのまちに人集う
おとなも子どもも手をつなぎ
しあわせの和を広げよう

目 次

市役所	6
[七尾市への移管による施設名称]	6
市制施行	6
未来像	7
七尾市まちづくり基本条例	7
行政区域と市町村合併の変遷	7
鹿島郡役所と鹿島郡公会堂	8
《郡役所・郡公会堂の変遷》	8
戦争の記憶	9
位置	9
[接する自治体]	9
面積	9
[県内自治体の面積]	9
《全国市町村数》	10
産業	10
交通	11
[海上交通]	11
[鉄道]	12
[道路]	13
地理	15
[海]	15
[山地]	17
[河川]	18
[潟]	19
[貯水池]	19
[名水]	19
気候	19
[気温]	20
自然	20
[生物多様性]	20
[植物]	20
[鳥類]	20
[両生類]	21
[海生生物]	21
[鳥獣保護区]	21

[森林管理]	21
[世界農業遺産]	22
[地質]	22
生活	22
教育	23
健康	23
水道	23
ごみ処理	24
防災	25
農産物	25
[能登伝統野菜]	26
[能登特産野菜]	26
[その他の農産物]	27
[耕作放棄地対策]	27
[農産加工品]	27
[和菓子]	27
[伝統食]	28
特産品	28
[海産物]	28
[水産加工品]	31
街並みと建築物	31
商店街	32
[一本杉通り商店街]	32
[中央通り商店街]	33
[七尾駅前]	33
[七尾駅前通り（リボン通り）商店街]	33
[東部商店街（トンチンカン共和国）]	33
[御祓川大通り]	34
市内の主要な建築物	34
[民家]	34
[橋梁]	35
温泉	36
[和倉温泉]	36
教育・文化施設	38
観光施設	41
[花嫁のれん]	43
[野生のイルカ]	43
スポーツ施設	44

産業施設	45
仲代達矢と無名塾	45
行事	46
[イベント]	46
[花火]	47
[スポーツイベント]	47
[今まで行われたスポーツなどの大会]	47
史跡	48
[七尾城跡]	49
[小丸山城跡]	49
《城跡と城址》	50
遺跡	50
[寺院跡]	50
[古墳]	51
[その他の重要な遺跡・史跡]	52
神社	55
《熊甲と藤津比古の二人の神様》	56
寺院	57
[山の寺寺院群]	57
[市内の主な寺院]	60
[お堂]	62
《文化財の数え方》	63
霊場	63
[能登国三十三観音札所]	63
[能登十二薬師]	64
[七尾石仏地藏]	64
[七尾石仏三十三観音]	65
人物	65
[大伴家持]	65
[畠山義総]	67
[長谷川等伯]	67
[長連龍]	69
[前田利家]	70
[前田利政]	70
祭礼	76
[曳山祭り]	76
[杵旗祭り]	77
[火祭り]	78

[奉燈祭り]	78
[獅子舞]	80
[その他の重要な習俗]	80
民謡	81
伝統工芸	81
伝承技術	82
ゆるキャラ	82
交流	83
民具	84
[衣食住]	84
方言	85

(市役所)

《所在地》 〒926-8611 石川県七尾市袖ヶ江町イ部25番地

七尾市袖ヶ江町に本庁舎を置き、パトリアやミナ、クルでも業務が行われている。平成28年4月に、それまでの田鶴浜市民センター・中島市民センター・能登島市民センターの3センターを廃止し、3地区のコミュニティセンターで、一部の行政サービスを行うようになった。

本庁舎は、昭和43年(1968)に橋町に所在した旧庁舎から現在地へ移り、旧袖ヶ江小学校の校舎を使用していた。同58年(1983)に現在の建物が完成した。

七尾鹿島広域圏事務組合は、昭和45年(1970)に発足し、消防・病院・環境衛生等の業務を当時の七尾市と鹿島郡の1市6町(合併後は、七尾市と中能登町)にわたって行っていた。平成25年(2013)3月29日に解散式を行い、同年4月1日から七尾市が業務を引き継いだ(組合事務局と組合議会は解散した。中能登町は業務を七尾市に委託している)。

[七尾市への移管による施設名称]

	名称の変更	
	七尾鹿島広域圏事務組合	七尾市が継承
消防関係	七尾鹿島広域圏事務組合消防本部	七尾鹿島消防本部
病院関係	公立能登総合病院	公立能登総合病院
環境衛生関係	ななかりサイクルセンター	ななかりサイクルセンター
	七尾鹿島広域圏事務組合中央埋立場	ななか中央埋立場
	七尾鹿島広域圏事務組合クリーンセンター	ななかクリーンセンター
	ななか斎場	ななか斎場

(市制施行) / 平成16年(2004)10月1日

現在の七尾市は、旧七尾市・鹿島郡の田鶴浜町・中島町・能登島町の4自治体(1市3町)が対等合併して誕生した。合併時の人口は、63,799人である。

(未来像)

“人が輝く交流体感都市”をキャッチフレーズとして、近年、グリーンツーリズムなど自然体験型の観光客や野外のスポーツ施設を生かした合宿等の誘致に力を注いでいる。また、退職した都市圏のシニア層に心豊かな生活を七尾で送ってもらう“ハッピーリタイアメント構想”を進めている。

(七尾市まちづくり基本条例)

平成24年(2012)9月1日制定。まちづくりの主体である市民・議会及び行政の三者が協働して、それぞれの役割を果たしていくための原則を示したものである。第3条に、七尾市の最高規範である^{うた}と謳っており、その重要性を認めている。

(行政区域と市町村合併の変遷)

明治3年(1870)5月 下村・八幡村・灘浦地区・石崎村など旧幕府領の62か村が、飛騨県(同年6月に高山県と改称。現在の岐阜県北部)に入る。

明治4年(1871)11月20日 羽咋・鹿島・珠洲・鳳至の能登4郡と越中国射水郡で七尾県を構成するが、約10か月後の明治5年(1872)9月27日に解体。能登4郡は石川県、越中国射水郡は富山県に編入された。現在の七尾市域は石川県となる。

明治8年(1875) 現在の七尾市の中心市街地は、江戸時代に^{ところのくちまち}所口町と呼ばれていたが、七尾町と呼ぶこともあり、町名が混在していた。明治期に入り再び七尾町の町名復活が提唱され、この年に正式決定し、近代七尾としての歩みが始まった。

明治22年(1889) 町村制の実施によって、28町(湊町一・湊町二・川原・鍛冶・塗師・作事・橘・今・相生・府中・大手・桧物・亀山・一本杉・生駒・米・木・阿良・魚・白銀・三島・常盤・松本・富岡・府中村の一部・藤橋村の一部・所口村の一部・小島村の一部)が統合されて七尾町が誕生した。^{ななおまち}

七尾町以外では村制が進められ、旧七尾地域で南大呑・北大呑・崎山・東湊・矢田郷・徳田・西湊・石崎・高階の9か村、中島地域で西岸・熊木・中島・豊川・笠師保の5か村、能登島地域で東島村・中乃島村・西島村の3か村、田鶴^{はし}浜地域は^{はし}相馬・田鶴浜・赤蔵・金ヶ崎の5か村にまとめられた。但し、端

村には奥原と和倉が含まれていた。さらに大正2年（1913）には、矢田郷村の矢田新などの一部が七尾町に編入された。

昭和9年（1934）端村・田鶴浜村・赤蔵村が合併して和倉町が誕生した。

昭和14年（1939）7月20日七尾町・矢田郷村・徳田村・東湊村・西湊村・石崎村・和倉町の和倉・奥原が合併して、七尾市が誕生した。金沢市に次ぐ県内2番目の市となった。

昭和29年（1954）3月31日 南大呑村・北大呑村・崎山村・高階村の4ヶ村が七尾市に編入。中島地域の5か村と元羽咋郡の鉾打村〔昭和23年（1948）に鹿島郡へ編入〕が合併して中島町が誕生。また、一部が鳥屋町に分割した相馬村と旧田鶴浜町・金ヶ崎村が合併して田鶴浜町が誕生した。

昭和30年（1955）2月1日 能登島の3か村が合併して能登島町が誕生した。

平成16年（2004）10月1日 旧七尾市・田鶴浜町・中島町・能登島町の1市3町が対等合併して新七尾市が誕生し、現在に至る。

（鹿島郡役所と鹿島郡公会堂）

旧七尾市が市制を敷くまで、市域は鹿島郡に属し、郡役所で業務が行われていた。

《郡役所・郡公会堂の変遷》

明治12年（1879） さいこう 西光寺（小島町）に置かれる。

明治19年（1886） まだしまち 馬出町に遷る。

明治24年（1891） 郡制が敷かれ、郡議会が開かれる。

明治25年（1892） このころ鹿島郡公会堂が小丸山の愛宕山に建設される。

明治29年（1896） 明治28年の大火で一時期長福寺（今町）に移転したが、馬出（現在の花嫁のれん館の場所）で新築する。

明治40年（1907） 明治38年の大火で再び消失して長福寺へ移転し、再度新築する。

明治42年（1909） 東宮殿下（後の大正天皇）行啓を記念して、明治28年の大火で焼失した鹿島郡公会堂が新築される。

大正 13 年（1924） 郡制が廃止され、郡自治会に移譲される。

（戦争の記憶）

【相馬飛行場】／昭和20年（1945）6月着工し、終戦前日に完成したが、飛行機を迎えることなく解体された。

【華工事件（中国人暴動）】／昭和初期に始まった日中間の戦争や太平洋戦争で日本に強制的に連れてこられ、七尾港で荷揚げ作業に従事していた中国人労働者399人が、昭和20年9月に日本の敗戦を知り暴動を起こした事件。同年10月には七尾警察署が襲撃を受けた。七尾港に近い郡町の海岸道路沿いに、亡くなった労働者を悼み「一衣帯水の碑」が建てられている。

【第二能登丸】／終戦直後の昭和20年8月28日土曜日夕方、矢田新埠頭から能登島の久美（佐波）、さらに三室へ向かう途中、寺島沖で米軍機が七尾湾に投下した機雷に触れ50数人の死傷者が出た。

（位置）

東端／ <small>うのうらまち</small> 鵜浦町	東経137° 03' 30"	北緯 37° 06' 26"
西端／ <small>そとはら</small> 中島町外原	東経136° 46' 35"	北緯 37° 07' 10"
南端／ <small>おおとまりまち</small> 大泊町	東経137° 03' 06"	北緯 36° 57' 34"
北端／ <small>かわち</small> 中島町河内	東経136° 49' 52"	北緯 37° 12' 04"

[接する自治体]

羽咋郡志賀町、鳳珠郡穴水町、鹿島郡中能登町、富山県氷見市の4自治体

（面積）

◇七尾市の面積 318.32 km² 〈平成28年10月1日 現在〉

◇七尾市の地目別面積（『平成28年度 石川県統計書』より）

林野 20,388ha 耕地 3,500ha 水稻 2,090ha

[県内自治体の面積] 七尾市との県面積に対する割合

順位 市町名 [km²] 比較[倍] [%]

1 白山市 754.93 / 2.37 / 18.0

2	金沢市	468.64/	1.47/	11.2
3	輪島市	426.32/	1.34/	10.2
4	小松市	371.05/	1.17/	8.9
5	七尾市	318.32/	1 /	7.6
6	加賀市	305.89/	0.96/	7.3
7	能登町	273.27/	0.86/	6.5
8	珠洲市	247.20/	0.78/	5.9
9	志賀町	246.76/	0.78/	5.9
10	穴水町	183.21/	0.58/	4.4
11	宝達志水町	111.52/	0.35/	2.7
12	津幡町	110.59/	0.35/	2.6
13	中能登町	89.45/	0.28/	2.1
14	能美市	84.15/	0.26/	2.0
15	羽咋市	81.85/	0.26/	1.9
16	かほく市	64.44/	0.20/	1.5
17	内灘町	20.33/	0.06/	0.5
18	川北町	14.64/	0.05/	0.4
19	野々市市	13.56/	0.04/	0.3
	計 石川県	4186.09/	13.16/	

※面積は、2015年10月1日国土交通省国土地理院「全国都道府県市区町村面積調」より

《全国市町村数》

平成26年（2014）4月5日時点で、1718市町村（790市、745町、183村）。

（産 業）

【酒造業】／江戸時代初期の明暦3年（1657）頃に所口町（現七尾市街地）には百軒もの造り酒屋があったという。近くにあった岩屋の霊泉の水を使って醸造され、芳醇で“七尾の甘口三年酒”と呼ばれた七尾酒は、北前船で各地に送られた。このように、良い水に恵まれたこと、海運業が発達していたこと、

蔵元が直接消費地に販売したことが酒造業の発展に繋がった。大正3年(1914)に、岩屋の霊泉から七尾港に出入りする船の給水用の岩屋水道が引かれ、現在「七尾港水源地」跡として残っている。

【八幡蕙】^{やわたむしろ}／江戸時代末に八幡^{かんのしちのすけ}(徳田地区)の神野七之助は、伝統の編み方でつくる蕙製品を研究して八幡蕙として売り出し、郷土の主要な輸出品に発展させた。

【セメント】／石灰石から造る。昭和50年(1975)まで津向町に住友セメント株式会社七尾工場があり、セメントを作っていた。

【珪藻土】^{いがい}／2千万年前に海中で植物性プランクトンの遺骸が堆積してできた。能登では泥岩として存在し、和倉と珠洲で採掘される。断熱・防火や脱臭・湿気調整また遮音性に優れているため、炭火焼きなどをする七輪(コンロ)・ピザ窯や土壌改良材として利用している。珠洲産は吸水性が高く良質である。扱う地元企業としてはイソライト工業株式会社が知られているが、昭和3年(1928)には煉瓦^{れんが}の製造を開始している。

【七尾大田火力発電所】(大田町)／石炭を燃料にしている。1号機は、出力50万kw。2号機は木質バイオマスも燃料とし、出力70万kw。建物の煙突の高さは200mある。

【虫ヶ峰風力発電所】／平成16年(2004)11月に、虫ヶ峰で10基の風車を備える風力発電所が運転を開始した。

【LPG国家備蓄基地】(三室町)／平成17年(2005)完成。建設費約415億円、LPガスの種類及び備蓄量 プロパン15万トン・ブタン10万トン

(交 通)

[海上交通]

海に面した七尾市では、北前船をはじめ、古くから海上での人々の行き来が盛んだった。明治初めには、現在の能登島日出ヶ島町―三室町間、能登島通町―中島町長浦間、能登島祖母ヶ浦町―鳳珠郡穴水町甲間の3か所に、渡し舟が通っていた。明治17年(1884)に松井善四郎が汽船一隻で七尾―宇出津間の航路を開設、また、翌18年曾良義三が曾良(穴水)―向田―佐波―七尾間の航路と道路を開いた。

明治44年（1911）に能登島汽船会社が設立され、中乃島村（能登島向田町）には1日2回の七尾―佐波―須曾―七尾航路、西島村では、1日3往復の須曾―七尾航路と1日1往復の半浦―七尾航路、東島村では、1日1往復の祖母ヶ浦―緩目―長崎―野崎―日出ヶ島―二穴航路が開かれた。また昭和元年（1926）に祖母ヶ浦から能登島の各港を寄港し七尾に至る1日1航路が開設された。これらの定期船は、昭和中頃まで能登島と七尾の半島側の海路を結んでいた。

大正7年（1918）には1日4往復の中島―七尾航路が開設された。

昭和41年（1966）11月から能登島佐波町と七尾港（府中町）の間を1日5回、車も乗せることができるカーフェリーボートが就航するようになり、この時間帯に合わせて能登島交通のバスが通るようになった。カーフェリーボートは、能登島大橋が開通した昭和57年（1982）に廃止された。

尚、海の安全を見守る観音埼灯台は、大正3年（1914）に設置された。

【海の駅】（船舶利用者の“道の駅”／1箇所）／ナナオベイマリン（津向町）が平成20年（2008）に「のとななお海の駅」に県内で初めて登録された。

[鉄 道]

市内の鉄道の駅には、南から、徳田駅・七尾駅・和倉温泉駅・田鶴浜駅・笠師保駅・能登中島駅・西岸駅の7つがある。特に西岸駅は、アニメ「花咲くいろは」で登場する温泉の最寄駅“湯の鷺駅”のモデルとして、訪れる人が多い。

【JR西日本】／旧・国鉄が分割され西日本旅客鉄道株式会社が発足した。七尾線は、明治31年（1898）4月24日に七尾鉄道により、矢田新―津幡（現・本津幡駅付近）間52.3km（矢田新―七尾間は貨物専用線）の開業により始まる。当時七尾駅は本府中町にあった。明治37年（1904）には七尾港駅（旧・矢田新駅）が旅客営業を開始した。明治40年（1907）国営となり、大正14年（1925）に和倉駅開業とともに七尾駅は御祓町の現在地に移った。旧駅舎は、JR高山本線の越中八尾駅に移築され今も往時の姿を偲ぶことができる。昭和3年（1928）に田鶴浜・笠師保・中島駅、昭和7年（1932）に西岸・能登鹿島・穴水駅が開業、昭和10年（1935）には終点の輪島駅まで七尾線が全線開通した。昭和33年（1958）に七尾駅の駅舎が現在の外観となった。昭和48年（1973）まで小型軽量テンダー式蒸気機関車C56が

走っていた（現在、車輪は矢田新町に記念碑とともに展示されているが、他にも、七尾機関区からたいめいん泰緬鉄道に送られ、タイービルマ間を走っていたC5631は、靖国神社に奉納されている）。昭和55年（1980）和倉駅を和倉温泉駅と改称し、駅舎を改築。ここに温泉街の玄関口として新たなスタートを切った。平成3年（1991）和倉温泉駅以南の七尾線が電化され、「サンダーバード」（運行中）「しらさぎ」「はくたか」（運行停止）各特急の乗り入れを可能にした。

また、期間限定で、平成23年（2011）7月1日から電化事業を記念したラッピング列車とうはくん号・わくたま号、翌24年（2012）7月28日から、京都・智積院所蔵の楓図・桜図・松に秋図をモチーフにした国宝 長谷川等伯号が走っていた。七尾駅のプラットホームでは、特急サンダーバードの乗降口の足元に青柏祭のでか山を描くなど、観光に力を入れている。

平成27年（2015）3月14日の北陸新幹線開通に合わせて、七尾線（金沢駅－和倉温泉駅間）に祭りの火や灯りをイメージした特急「能登かがり火」号が導入された。同年10月からは輪島塗や加賀友禅をイメージした「花嫁のれん」号が運行を開始し、これからも観光客の交通手段としての役割はますます重要になってくる。

【のと鉄道】／JR西日本から路線を分離して開業。平成13年（2001）4月1日に輪島－穴水間廃止。ラッピング列車の花咲くいろは号を走らせるなど、誘客に努めている。和倉温泉駅のプラットホームでは、特急サンダーバードの乗降口の足元に石崎奉燈祭を描いている。そして、平成27年（2015）4月29日から列車の内装に田鶴浜建具の組子、能登上布、能登ヒバなどを使用した「のと里山里海」号が運行。

各駅の愛称は、田鶴浜駅／たてぐのまち駅、笠師保駅／こいび恋火駅、能登中島駅／おまきかせのえき演劇ロマン駅、西岸駅／小牧風駅となっている。

[道 路]

市内の道路は、昭和に入ってから舗装や拡幅工事が本格化する。昭和10年（1935）の作事町・中央通りの舗装が早い例である。

【自動車専用道路 ふるさと紀行「のと里山海道」】／元は、昭和57年（1982）に起点・金沢－終点・穴水間82.9kmが全線供用した能登有料道路で、地方の道路公社が運営する有料道路では日本一の長さだった。平成25年（2013）

3月31日正午に無料化。能越自動車道の能登空港一穴水ICと直線化工事が完了した内灘一向粟崎ICを加えて総延長は90kmとなり、新しい名称は世界農業遺産「能登の里山里海」に因^{ちな}んで命名された。

上棚矢駄^{うわたなやだ}IC、徳田大津IC、横田ICの各インターチェンジがあり、平成22年（2010）4月25日に別所岳SA展望台（別所岳スカイデッキ「能登ゆめてらす」）がオープンしている。

【能越自動車道】（一般国道470号）／石川県の輪島市と富山県の砺波市を結ぶ道路で、この内、田鶴浜道路は、田鶴浜ICで「のと里山海道」と連結している。また、七尾氷見道路は延長28.1kmで、石川県側は13.6kmあるが、石川県側で初めて七尾大泊IC—七尾城山IC（矢田町）間9.3km（4つのトンネル・10の橋、総工費400億円）が平成25年（2013）3月24日に供用開始した。七尾城山IC—七尾IC間3.2kmと七尾大泊IC—富山県境間1.1kmは、平成27年2月28日全線開通。

【国道交差点】／川原町交差点は、159号と160号の2つの一般国道が連結している。

【国道159号】／金沢方面へ伸びる道路で、昭和14年（1939）に産業道路として着工。途中に鹿島バイパス^{ひがしおうらい}を含み、東往来とも言われている。能越自動車道全線開通と同時に七尾バイパスの古府町一下町間3.2kmが開通。

【国道160号】／富山県高岡市へ向けて灘浦海岸沿いに伸びる道路。

【国道249号】／藤野町北交差点から輪島や珠洲方向へ伸びる道路で、能登半島を一周する。

【石川県の「道の駅」】（七尾市に4箇所。いおりが市内で最初に登録された。）

- | | |
|-------------------------|--------------------|
| 1. 千枚田ポケットパーク | 2. 高松 |
| 3. <u>いおり（いいパークななお）</u> | 4. 桜峠 |
| 5. しらやまさん | 6. <u>なかじまロマン峠</u> |
| 7. 赤神 | 8. とぎ海街道 |
| 9. 輪島（ふらっと訪夢） | 10. ころ柿の里しか |
| 11. 瀬女 | 12. 一向一揆の里 |
| 13. 能登空港 | 14. 倶利伽羅源平の郷 |
| 15. 山中温泉ゆけむり健康村 | 16. <u>のとじま</u> |
| 17. すず塩田村 | 18. 内灘サンセットパーク |

19. 能登食祭市場（みなとオアシス認定） 20. こまつ木場湯
 21. 狼煙 22. すずなり
 23. 織姫の里なかのと 24. あなみず
 25. のと千里浜 26. めぐみ白山

【バス】大正2年（1913）七尾一輪島間に初めて開通し、同14年（1925）田鶴浜一七尾間に「乗合い自動車」が開通。

【タクシー】大正2年（1913）和倉で初めて開業。

（地理）

[海]

【湾】七尾湾／瀬戸を境にして七尾北湾・七尾西湾・七尾南湾に区分される。

【瀬戸】 大口瀬戸／能登島祖母ヶ浦町と鳳珠郡穴水町甲の間。

小口瀬戸／能登島野崎町と鶴浦町の間。

びょうぶ

屏風瀬戸／能登島半浦町と石崎町の間。

さんかくち

三ヶ口瀬戸／能登島通町と中島町長浦の間。

【入江】箱名入江／能登島曲町・嶋島入江／能登島閨町・免屋入江／能登島佐波町

【小島】七尾湾の小島 大島・水越島・かもめしま 鷗島・コベ島・小島・重蛇島・黒島・鱈島・中島・立ヶ島・青島・猿島・種ヶ島・机島・長島（現在は

陸続き）・カラス島・嫁島・寺島・コシキ島・めしま 雌島・おしま 雄島

能登島東岸の島 ささえしま 螺螄島・松島

灘浦方面の島 観音島（現在は陸続き）

* 仏島（富山県の県境にあり、氷見市に含まれる。）

【港湾】

① 七尾港（特定港・開港・検疫港・出入国港・重要港湾）

府中町から矢田新町にかけて広がり、第九管区海上保安本部の七尾海上保安部が設置されている。七尾市の産業は、貿易港としての七尾港を中心に発展してきた。江戸時代には、日本海沿岸の佐渡や秋田などの主要な湊を経て北海道へ下る北廻り航路、それとは逆に外ノ浦（島根）や赤間関（山口）、鞆の浦（広島）などを経て大坂など関西方面に上る西廻り航路があった。通称北前船と呼

ばれた廻船は、日本海と瀬戸内海を往復して品物を売買し、一航海で多くの利益を得ることができたため、千石船とも呼ばれた。主な移出品は米・酒・海産物・蕈・縄などで、移入品は黒砂糖・蠟・鉄・綿・藍などであった。日本各地の主要な港に残された廻船問屋の宿帳「客船帳」に多くの七尾船の活躍が残されている。そのため、七尾市内の神社や寺院には船絵馬の奉納がみられる。

明治32年（1899）7月12日に開港場に指定され、全国22港とともに国際貿易港となり、明治40年（1907）には鳳至（現鳳珠）郡穴水町出身の実業家・樋爪讓太郎らによってウラジオストク航路が開設され、大正13年（1924）に定期船が出るようになった。昭和27年（1952）重要港湾に指定される。

平成28年（2016）の品種別取扱貨物量（トン数）で最も多かったのは七尾大田火力発電所の燃料に使われる石炭であった。

また、七尾港には石川県漁業協同組合 ななか支所が所在し、漁港としての役割もある。さらに、現在は、能登食祭市場を中心とした観光の窓口でもあり、平成22年（2010）10月3日と同24年（2012）10月4日には、大田地区（3号大水深岸壁）に全長240mある日本最大の豪華客船飛鳥Ⅱが接岸し、その優雅な姿を見せた。

② 和倉港（地方港湾）

③ 半ノ浦港（地方港湾）

【漁港】

第1種漁港

東浜漁港／熊淵川の河口に位置し、(有)寒鰯大敷網がある。

黒崎漁港／黒崎川の河口に位置する。

上佐々波漁港／佐々波川の河口に位置する。

百海漁港／伊掛山の麓に位置し、山頂付近の大銀杏が網アドの目印となっている。

江泊漁港（江泊・大野木・白鳥地区）／白鳥定置網組合などがあり、漁業の盛んな地域である。

鵜浦漁港／鹿渡島定置は、富山湾内の定置網経営の中で平均年齢が一番若い経営体である。

三室漁港／七尾湾内の入口付近に位置し、近くにLPG国家備蓄基地がある。

野崎漁港／定置網漁が盛んである。

ばがうら
祖母ヶ浦漁港／七尾湾北湾の大口瀬戸の入り口に位置する。小型定置網漁が主体である。

向田漁港／かつては、その周辺域で、のりや真珠、たい、はまちなどの養殖がおこなわれていた。

曲漁港／近くに県営のとしま水族館があり、かつては国営の栽培漁業センターや県水産試験場など魚類研究の地区として整備されていた。

さんがうら とおり
三ヶ浦漁港（通・久木・田尻・閨地区）／通漁港とも言う。

中島漁港（深浦・瀬嵐地区）／中島町塩津には石川県漁業協同組合七尾西湾支所がある。

第2種漁港

庵漁港／岸端定置網組合があり、ブリ漁などで賑わう。

下佐々波漁港／八幡川の河口に位置し、株式会社佐々波鰯網で獲れた魚は七尾をはじめ氷見や金沢、東京築地の市場へトラックで運ばれる。

石崎漁港／県管理漁港となっている。石川県漁業協同組合七尾支所がある。

100mほどの網の先に付いた網を曳く底曳き網漁で魚を獲る。

東京などへ出荷している。

えのめ はちがさき か
鰯目漁港（八ヶ崎・鰯目地区）／能登島で、漁業が一番盛んで且つ一番大きい港。大型定置網（大敷網）や小型定置網漁が盛んである。

【海水浴場】

松島海水浴場（能登島野崎町）

能登島マリンパーク海族公園海水浴場（能登島佐波町）

八ヶ崎海水浴場（能登島八ヶ崎町）

いいPARK七尾海浜レジャーランド海水浴場（庵町）

鵜浦海水浴場（鵜浦町）

[山地]

城山／標高約380m（展望台）。本丸跡付近は約300mである。

別所岳／標高358m。穴水町との境に位置する。のと里山海道の別所岳パークキングには七尾北湾を一望できる展望台がある。

風吹岳／標高354m。志賀町との境に位置する。

むしがみね
虫ヶ峰／標高296m。志賀町との境に位置する。山頂付近に所在する白山

神社（観音堂）は、能登三十三観音巡礼二十四番札所となっている。
伊掛山^{い かけやま}／標高252m。山の名は、ある翁^{おきな}が笊籠（ざる）で、海から来た
少比古那神^{すくなひこなのかみ}をすくい上げて安置したことに由来する。

四村塚山^{よむらづかやま}／標高197m。テレビ中継局などの塔が建ち並んでいる。

赤蔵山／標高179m。かつては120の坊があったと伝えられている。長
家ゆかりの祈禱寺院（栄春院^{えいしゅんいん}・怡岩院^{いがんいん}）や講堂、仁王門などがある。

[河 川]

【流路延長の長い順】

1. 熊木川／流路延長・市内延長とも14.7km。川にあった中洲^{なかす}が、「中島」という町名の由来となった。支流に河内川・西谷内川・鳥越川がある。
2. 二宮川／流路延長14.1km、市内延長7.3km。石動山を源流とし、中能登町も貫流する。高田町から杉森町の川筋1kmには、4月中旬から末にかけて白や黄色など10種類の見事なスイセンが咲く。支流に、石塚川・伊久留川^{い くら}・吉田川（10年前に100本の桜を植樹。蛍の幼虫を放流して「ホタルの里」を目指している。川尻川^{かわのお}・舟尾川がある。
3. 日用川^{ひょう}／流路延長12.8km、市内延長9.8km。
4. 熊淵川／流路延長・市内延長とも12.6km。支流に水上川・小川内川^{こうち}がある。
5. 御祓川／流路延長・市内延長とも6.5km。七尾駅から能登食祭市場までの通りに沿って流れる。支流に、鷹合川^{たかごう}・砂田川^{すなだ}・笠師川（八幡町）・桜川放水路がある。
6. 崎山川／流路延長・市内延長とも5.6km。
7. 大谷川／流路延長・市内延長とも4.7km。支流に、木落（蹴落）川^{きおとし（けおとし）}・杵田川^{かんじや}・鍛冶屋川がある。

【上記以外の河川】

堂浜川・小牧川・笠師川・塩津川・大津川・深見川・三引川・高田川（小さな河川）^{まに}・満仁川（小さな河川）・浜岡川^{かんべ}・赤浦川（小さな河川）^{とくみ}・毒見^{どくみ}殿川（小さな河川）^{でん}・鍛冶谷川^{うすいけ}・赤星川^{あせほし}・臼池川^{うすいけ}・高田川^{たかた}・大野木川^{おののき}・江泊川^{えのとまり}・

八幡川・佐々波川・黒崎川・東^{とうのはま}浜川・鮭谷川・若林川（小さな河川）・衣川・
権六川（小さな河川）

[潟]

赤浦潟／周囲4.1 km、面積0.29 km²。

大津潟／平成25年2月に、環境省レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類のマナヅルが飛
来、県内では8年ぶり5回目の確認となる。この他にも、周辺にはコ
ウノトリ・朱鷺^{とき}・ヘラサギなど稀少種の鳥が飛来する。

[貯水池]

多根ダム（多根町） 昭和52年度完成。熊淵川の上流にあり、主に灌漑用水^{かんがい}
として流域の田畑を潤している。

[名 水]

平成25年（2013）8月30日には、七尾市和倉温泉において「名水サミ
ット in 七尾」が行われた。

【御手洗池^{みたらし}】（三引町）／昭和60年（1985）に全国名水百選（昭和の名水
百選）に選ばれた。1日600トンの水が湧き出て、灌漑用水として20ha
の水田に使用されている。

【藤瀬の霊泉^{ふじのせ}】（中島町藤瀬）／病気に効くと言われ、平成20年（2008）
に環境省から全国名水百選（平成の名水百選）に選ばれた。

（気 候）

日本海に突出した能登半島が北東に向かって伸び、富山湾が東に向かって広
がる。その結節点^{けっせつてん}に位置する七尾市では、地理的要因を受けて興味深い様相を
見せている。富山湾に暖流の対馬海流が流れ込むため緯度の割に温暖で、七尾
南湾の小口瀬戸付近の鹿渡島の観音島や能登島野崎沖の松島では、日本の植物
分布の北限と南限が混在する。

日本海側の沿岸で能登半島の内浦で南西の風をクダリの風と言い、これに対
して北東から吹くつめたい風をアイの風と言う。北よりの風はタカ風、南よりの
風はヤス風、東よりの風はダシの風などと呼ばれている。アイの風は、民俗

的に幸せをもたらすと信仰されている。また、「ヤス風」は強い風が吹く割には魚が取れないため安風ともいわれる。他にも、空気の澄んだ天気の良い日に立山連峰が見えると雨、燕が低く飛ぶと雨になると言われていて、天候にまつわる民俗的な予兆現象の教えは多い。これらは能登の厳しくも豊かな生活の中で育まれた知恵である。

[気 温]

平成28年観測の最低気温は、-3.8℃、最高気温は35.3℃であった。

(自 然)

[生物多様性]

七尾市では、市民や学校等の協力のもと市内に生息する野生動植物を調査している。平成26年(2014)3月31日時点で613種が確認されている。

[植 物]

【伊影山神社のイチヨウ】(庵町)／富山湾に面した灘浦海岸に近い伊掛山いかけやまの標高240mの場所にあり、山の鎮守・伊影山神社のすぐそばそびに聳える。樹高26m、胸高囲11.4m、樹齡400年～500年以上と言われ、イチヨウとしては県下でも最大級という巨樹きょじゆ。昔から、秋に葉が黄色く色付くと、回遊する鱒を獲るための定置網を下す位置を決める「山だめ」の目印とされていた。長年の風雪や雷雨に耐えて、幹に条溝を刻み、多数の乳柱を垂れ、古木としての威容を誇っている。尚、このイチヨウは雌株である。平成2年(1990)9月26日県指定天然記念物となる。

【飯川のヒヨドリザクラ】(飯川町)／昭和45年(1970)に見つかったが、それまでは絶滅したと思われていた珍しい桜。菊咲きで紅色をしており、一つの花に数百枚の花びらをつけて、4月末から5月上旬頃開花する。昭和47年(1972)8月23日県指定天然記念物となる。

[鳥 類]

【朱鷺】／昭和30年代に中継地として中島町須久保すくほで確認された後、日本固有の朱鷺は絶滅した。中島町鉦打地区では、地域住民が中心となって朱鷺が

住めるような自然環境を取り戻す活動を行っている。

【オオタカ】／稀少猛禽類。能登では、平成24年（2012）に鳳珠郡能登町と七尾城山周辺で営巣が見られたが、平成25年（2013）には宝達山（羽咋郡宝達志水町）でしか営巣が確認されていない。

[両生類]

【ホクリクサンショウウオ】／石川県と富山県の一部に生息しており、県内ではかほく市以北の5市5町に生息している。環境省及び石川県では絶滅危惧種に指定されている。また、羽咋市では天然記念物に指定されている。

[海生生物]

【ウミホタル】／甲殻類。能登島向田町や能登島祖母ヶ浦町の海岸の波打ち際で、6月下旬から9月下旬まで見られる。

[鳥獣保護区]

鳥獣の保護繁殖を図るために、鳥獣保護法に基づき、国または県により指定される区域のこと。七尾市内には、県指定鳥獣保護区が4箇所指定されている。

番号	区名	所在地	指定目的の区分	指定期間	面積(ha)
1	和倉	和倉町地内	森林鳥獣生息地	H25.11.1 ~H45.10.31	550
2	小丸山	馬出町地内		H25.11.1 ~H45.10.31	45
3	鹿渡島	鶴浦町地内		H21.11.1 ~H41.10.31	15
4	七尾西湾	田鶴浜町地内	集団飛来地	H20.11.1 ~H40.10.31	200

[森林管理]

七尾市では、森林の所有者と協定を結び所有者の適切な森林管理の支援や林道の維持管理に取り組んでいる。平成26年度までに80人の森林所有者と協定を結んでいる。

[世界農業遺産]

国際連合食糧農業機関（FAO／本部：イタリア・ローマ）が認定する取り組み。平成23年（2011）6月11日に中国・北京市で開催された「世界農業遺産国際フォーラム」で、「能登の里山里海」が、新潟県佐渡市の「トキと共生する佐渡の里山」とともに、日本で初めて、世界で12番目となる世界農業遺産（略称：G I A H S）認定を受けた。これまでの例に無い、農業だけでなく漁業・自然・祭事など民俗や生活習慣といった要件を包括しての認定である。平成25年5月29日から31日にかけて「世界農業遺産会議」が、和倉温泉など能登を会場にして行われた。

[地 質]

【岩屋化石層】（藤橋町）／昭和2年（1927）に新種の二枚貝の化石として〔和名〕ナナオニシキ（学名：ナナオクラミス=ノトエンシス）が発表された。平成2年（1990）9月26日県指定天然記念物。

【和倉珪藻泥岩層】／能登半島には、国内全体の74%にあたる27億トンの珪藻土が埋蔵されていると言われ、能登半島の4分の3は珪藻土台地とも言う（能登半島が太古は殆ど海だったことを表している）。市内では、他に山戸田珪藻泥岩層などがある。珪藻土は、炭火焼きなどで使う七輪（コンロ）や道路改良材の原料として、主に和倉や珠洲市で掘り出されるが、珠洲産の方が吸水性も高く良質である。

また、放射性物質で汚染された土壌に2cmの厚さで撒くと、放射線量が30%低下するというデータがあり、原発事故対策にも利用が試みられている。

【そのほかの地層】

赤浦砂岩層・七尾累層・高階泥砂礫岩層・笠師保層・浜田泥岩層・七原泥岩層

（生 活）

『週刊東洋経済』2012.10.13号の特集テーマ「日本のいい街 2012」の中で、七尾市は「高齢者の住みよい街ランキング」で4位、「出産・子育てしやすい街ランキング」で5位になっている。東洋経済の『都市データパック「住みよさランキング 2017」』では七尾市は28位になっている。

（教 育）

戦後の義務教育では、昭和23年（1948）に七尾市教育委員会が発足している。最近の学校数の変遷をみると、平成27年（2015）に小学校12校・中学校6校となっている。

高等教育では、平成16年（2004）4月に、中能登地区の実業教育を担ってきた七尾の農業・工業・商業の各県立高等学校（平成18年（2006）3月閉校）が統合されて、3校の教育内容と伝統を受け持つ石川県立七尾東雲^{しののめ}高等学校が開校した。後に石川県立中島高等学校（平成22年（2010）3月閉校）の普通科演劇コースを移行し、演劇科という特色ある学科をもつに至っている。

（健 康）

ななおいきいき体操／平成24年（2012）に生活習慣病の予防と運動不足の解消を目的として創作された。

（水 道）

大正2年（1913）12月、当時の中島村に県下初の水道ができた。これは、飲料水と伝染病予防を目的とした全国でも6例目となる早い時期の設備である。それまでは、代本地区の「御たちの水」という共同井戸^{よもと}が使われていた。水道の水源地には、同地区の山間にある2つの溜池が使われた。水道は中島村223戸の内183戸、熊木村浜田地区と合わせると1,500人が使用していた。現在、施設の跡は「中島水道跡」として市指定史跡となっている。現在、中島地域では、熊木川の水を水道水として利用している。

七尾市街地では、昭和28年（1953）に上水道工事が始まり、翌年給水を開始している。現在、市では主に手取川の水（以下、県水）を水道用水として使っており、昭和61年（1986）4月から受水を開始した。県水は、鶴来浄水場で飲料水になり県内8市4町（加賀市・小松市・白山市・野々市市・金沢市・かほく市・羽咋市・七尾市・内灘町・津幡町・宝達志水町・中能登町）に送られ、七尾市では1日に最大約21,000m³の水が送られている。一旦、藤橋町の七尾地区上水道総合管理センターの近くにある貯水槽に貯められ、地下水と混ぜて浄水し、各家庭へと送られる。また、別に山間部にある簡易水道では、地下水のみを使用して配水している。また、能登島地域は、県水と地下

水を混ぜた水、田鶴浜地域は、7本の井戸から汲み上げた地下水を利用している。

一方、下水については、高度経済成長期に工場・事業所の産業活動に伴う排水や、家庭からの生活排水により、市内の川や海の汚染が進行した。その結果、七尾南湾は平成7年（1995）に水質汚濁防止法に基づき生活排水重点地域に指定された。

生活排水等による汚染を減少させるためには、下水道処理を普及させる必要がある。しかし、七尾市の下水処理（下水道、浄化槽など）の普及率は低く、平成26年度末時点では石川県の普及率は92.9%に対し、七尾市は73.8%である（県内16位）。

（ごみ処理）

市には平成28年（2016）5月18日現在で1,283箇所のごみステーションが設置されており、「燃えるごみ」、「埋立ごみ」、「古紙等」、「金物類」、「びん類・乾電池等」を出すことができる。

平成17年（2005）4月からごみ収集業務が七尾鹿島広域圏事務組合から七尾市と中能登町に変わり、市では「家庭ごみ収集カレンダー」を発行し、黄色で透明な指定の可燃物用ごみ袋を販売するようにした。ななかりサイクルセンター（吉田町）では、1日94トンの燃えるごみを、公害が起きないようにアールディーエフRDFという固形燃料ごみに造り替える。また、ななかりサイクルセンターでは、ペットボトルの圧縮梱包作業と乾電池等の選別作業を行っている。

ななか中央埋立場（藤橋町）では、埋立ごみの処分を行っている。

古紙等、金物類、びん類は廃棄物再生業者に引き取られている。

ごみ処理は社会状況によって制度が変遷してきた。昭和46年（1972）に燃えるごみと埋立ごみの分別収集が開始した。これが市内で初めての分別収集であった。その後、リサイクルが推進され古紙等、金物類などの分別収集も行われた。

平成13年（2001）には家電リサイクル法施工に伴い、テレビなどの4家電製品の収集を廃止。平成15年（2003）にはパソコンの収集を廃止、平成25年（2013）には小型家電製品の一部を金物類として収集するなど、環境社会が大きく変わった。

また、平成26年（2014）には七尾市ばい捨て等を防止する条例が制定され、市民一人一人が環境に対する意識を高める制度が整えられた。

※ RDF / “廃棄物から出た燃料” という英語の略で、直径1.5cm×5cm。燃やすと水蒸気が発生し、それによってタービンを回して電気を起こす。また、水分が多いと自然に発熱する。石川北部RDFセンター（羽咋郡志賀町矢駄）では、1日160トンのRDFが発電燃料として利用されている。

（防 災）

市では、個人の大切な生命や財産を守るため、日々、注意喚起や啓発に努めているが、まず、身近な人災をいかにして防止するかが、基本であろう。そのはじめに挙げなければならないのが、火災への対策である。七尾市街地の例を挙げれば、明治28年（1895）4月に三島町より出火し御祓川西側の約1,000戸を焼失した“西の大火”、明治38年（1905）11月に府中町より出火し689戸を焼失した“七尾大火”が起こっている。いずれも莫大な費用を掛け市街地の再興を要した大火事だった。

近代では、昭和9年（1934）能登沖地震が起こっている。最近は、平成19年（2007）の能登半島地震、平成23年（2011）の東日本大震災など、全国的な大型災害が起こっていて、防災に対する備えが重要になってきている。平成24年9月に、地震や津波による被害範囲を予測したハザードマップ「七尾市津波避難地図」を作製し、平成25年2月22日から3月末にかけて、電柱525箇所に避難場所表示看板を設置した。また、同5月上旬から緊急放送を受信できる防災ラジオの購入を受付け、同8月から「新防災告知システム」を稼働した。

さらには、東日本大震災では原子力発電所が被害を受け、周辺市町村はじめての陸や海への放射能汚染が現在でも問題になっていて、地震の二次災害に対する対策も重要である。七尾市域は、志賀原子力発電所から半径30km圏内にほぼ収まっており、10km圏内には七尾市の一部が入り、七尾市街地付近は丁度20kmライン上にある。

（農産物）

市で最も生産量が多いのが米で、平地が広がっている邑知低地帯（邑知地溝

帯)の徳田地区は、たくさんの川が流れ、灌漑設備も整っていて米作りが盛んである。

[能登伝統野菜]

【中島菜】／元は“中島カブラ”と呼ばれていた。血圧の上昇を抑える作用があり、近年は健康食品としても注目されている。漬け物、中島菜入りプリン、平成19年(2007)から能登わかば農業協同組合(JA)がハラダ製茶と共同開発した「ま菜茶」が販売されている。

【沢野ごぼう】／食物繊維やポリフェノールが豊富で美肌効果・老化防止などに有効な食物といわれています。沢野町周辺の粘土質の土地で栽培され、約350年前に神主が京都から種を取り寄せて植えたのが始まりで、加賀藩の献上品として将軍に献上されていました。普通のごぼうの3倍の太さがあり、柔らかく、さくさくとした食感が特徴。10月~11月に収穫され、平成23年(2011)3月には地域団体商標(地域ブランド)を取得した。伝統料理に「七日炊き」「叩きごぼう」がある。

【金糸瓜】^{きんしうり}／輪切りにして茹でると果実がほぐれて糸状になるので、「そうめんかぼちゃ」とも言われる。報恩講料理として古くから地域に根付いている。夏の暑い時期にシャキシャキとした歯ごたえで食欲増進・水分含量が高いことから利尿作用が高いといわれている。

【神子原くわい】^{みこはら}／神子原は羽咋市の町名。またここで作られた“神子原米”は全国的に知られたブランドである。

【小菊かぼちゃ】^{こぎく}／昭和40年半ばの転作を契機に旧中島町で栽培が始まる。名前の由来は直径15センチ程度の小型のかぼちゃを真上から見ると菊花に似ていることから名付けられる。ビタミンC、カロチンが豊富で上品な甘さとしっとりした肉質が魅力である。

[能登特産野菜]

能登かぼちゃ	能登赤土馬鈴薯 ^{あかつちばれいしょ}	能登山菜	能登白ねぎ
能登すいか	能登金時 ^{のときんとき}	かもうり	能登ミニトマト

[その他の農産物]

【崎山いちご】／七尾市東部にある崎山半島の崎山川沿いで、露地栽培・促成栽培・低湿栽培という方法で作られている。品種は「宝交早生」「章姫」。奈良県へ出稼ぎに行った人が、苗を伝えたという。

【りんご】／能登島で作られている。

【マスクメロン】／田鶴浜地区で作られている。

【筍】／千野町が名産地で、「たけのこ料理」が有名。

【古代米】／平成16年(2004)以来、藤橋町の田で数種類の異なる古代米の稲穂を使って文字や絵が描かれている。

[耕作放棄地対策]

七尾市では、耕作放棄地への対策として、平成18年(2006)8月より企業が農業事業に参入できるように制度を整えた。その結果、平成26年(2014)3月31日現在で、企業は339, 307㎡活用している。

[農産加工品]

【八太郎漬】／能登島大橋開通を3年後に控えた昭和54年(1979)に、現・能登島半浦町の女性によって結成された「あけぼの会」が考案し、能登島の名産となった。「八太郎」の名称は、かつて能登島を治めたという八人の侍“島八太郎”に由来している。

[和菓子]

【大豆飴】／一説に、鎌倉時代に能登の地頭に任じられた長谷部信連が源頼朝に献上し、または室町時代前期の応永年間以来の歴史をもち、畠山義忠が歌会や茶会に出され、また戦時食として用いたのが始まりという。前田利家が京都の屋敷で豊臣秀吉をもてなした時に贈ったことが文禄3年(1594)4月8日の「豊太閤前田邸御成記」に見える。材料に大豆・砂糖・きなこ・水飴を使っている。

【長まし】／漉し餡が入った菱形の餅菓子で、先端に紅色と緑の粉が付いている。青柏祭の名物。

[伝統食]

【こんかいわし】／糠に漬け込んだ保存食で、湿度の高い能登の気候が生んだ代表的な発酵食品。塩辛さが米飯と合う。

【じゃり子餅】／熊淵川流域に古くから伝わる郷土料理。「じゃり子」と呼ばれる産卵間近の鱈の真子まこを酒・水・醤油で炊き、つきたての餅に付けて味わう。

【かぶら寿し】／大根の一種「かぶら」に塩漬けの鰯や鯖を挟んで麴こうじで漬けて発酵させる保存食で、「なれずし」の一種。

【茶碗豆腐】／夏の風物詩で、茶碗のような丸い形をした豆腐。中に辛子を入れるのが特徴だが、最近では別にしてあるものが多い。

(特産品)

[海産物]

“七尾の味覚”は、特に冬に多いのが特徴。市で漁獲高の多い魚は、次のとおり（平成28年 平成29年度七尾市統計書より）〔単位／t〕

鰯	6,417	鰯	415	烏賊	479	鯖	387
鱈	645	鯉	153	鱈	171		
計	10,314（その他の魚種を含む）						

【ナマコ（海鼠）】／漢字は、夜に動き回る鼠ねずみに似た生態から来ている。平城京（奈良県）の長屋王邸ながやのおう近くの二条大路の溝から出土した木簡には、天平8年（736）に能登郡鹿嶋郷望理里まかりさと ちょうの調（古代律令国家の税の一つ）として、煎ナマコが都に送られたことが記載されている。江戸時代中期になって加賀藩が専売制をとり、所口町商人・塩屋清五郎しおやせいごろうが「長崎俵物御用」ながさきたわらもの（煎ナマコを長崎まで送る）を務め、一手に商売を引き受けた。

七尾湾は、餌の植物プランクトンが豊富で波穏やかなため、大きくて柔らかなナマコが育つ。青ナマコより赤ナマコの方が、数が少なく高級品。ナマコ漁の解禁日は11月6日で漁船が桁けたびき網や底そこびき網漁によって捕獲する。

身を輪切りにして調理されるほか、このわた（海鼠腸）（細い腸を一本一本伝統の技で仕上げる塩辛）・干くちこ（口子。糸状の卵巣を細い縄に掛け、三角形に干した珍味）いりこ・煎海鼠・きんこ（ナマコを二度茹でて天日で約1ヶ月乾燥させ中華料理でも珍重される高級食材）といった珍味に加工される。

また、平成22年（2010）8月にナマコ石鱈が発売され、なまこや（大根音松商店）から「KINKOぷりん」が販売されるなど、関連商品も開発されている。

【牡蠣（カキ）】／一般にマガキ（真がき）を指すが、国内産のマガキは、ほぼ全量が養殖でまかなわれ、広島県（全国1位）や宮城県が養殖の名産地として知られる。県内では一番獲れ高が多いのが七尾市で、中でも“能登かき”として七尾西湾に面した中島地域や奥原町が盛んである。中島地域では大正2年（1913）に養殖実験が行われ、大正12年（1923）には瀬嵐の瀬森理助・筆染の藤崎傳平が、広島県や宮城県から本格的に導入した。昭和23年（1948）には西湾漁業協同組合が発足している。

現在では、種牡蠣をホタテの貝殻に付着させたものを上記2県や三重県から取り寄せ、牡蠣（貝）^{だな}棚で養殖が行われ、日本海側一の出荷量を誇っている。但し、穴水町も含めた七尾湾の全国シェアは約1%である。

能登かきは、里山と里海の恩恵を受け、餌となるプランクトンが豊富なため1年ものとして出荷でき、小粒だが肉厚であり2年ものに比べても風味が良い。12月～3月が旬だが、特に2月ごろが美味といわれる。その味覚と栄養価から“海のミルク”と称される。

※ 能登では他に天然岩牡蠣が獲れる。その産地は輪島市・珠洲市・志賀町高浜・羽咋市柴垣で、海女・海士などによる素潜りで捕獲する。貝殻の長さ17～19cm・身の長さ10cmと“能登かき”に比べ大きく、また“能登かき”の旬が冬なのに対し、天然岩牡蠣の漁は5月から始まり最盛期が7月下旬～8月上旬と、対照的である。

【鰯（ブリ）】／灘浦海岸の定置網で獲れる、冬の代表的な魚。

成長とともにコソクラ → フクラギ → ガンド → ブリと名前が変わる出世魚である。“鰯おこし”と呼ばれる晩秋から初冬にかけて北西の風を伴って起きる雷雨の後、漁が盛んになる。また、石川・富山両県では、娘の婚家へその年のお歳暮に一匹まるごと贈り、もらった婚家は半分を贈り返し、両家で半分ずつ頂くのが習わしとなっているほど、地元で馴染みの深い魚である。

【鱒（タラ）】／2月11日の起舟きしゅうの日には、海上の安全と豊漁を祈願し舟に大漁旗を掲げるが、かつては網元の家で漁師たちに御膳で鱒が振る舞われた。

【ハチメ】／標準和名はメバル。七尾湾を代表する魚の一つで、岩礁帯の藻場もば

に生息する。平成26年3月に七尾市の魚となった。

【カワハギ】／地元では、カワムキとかバクとも言う。釣りの時にはクラゲが餌として利用される。

【川鯛（カワダイ）】／クロダイの能登での呼び名。引きが強いことから釣り人に人気があり、刺身・焼き魚でも美味しい。

【鮟（イサザ）】／ハゼ科の一年魚で、別名シロウオ。雪解け水が温かくなり始めると、産卵のため七尾湾に注ぐ川の河口に遡上する。“いさざ漁”の解禁日は3月1日で、熊木川では四つ手網、小牧川ではたも網などを使って漁が行われ、春の訪れを告げる風物詩となっている。踊り食いや吸い物、卵とじなどをして食する。

【鰯（ボラ）】／かつて、中島地域でも「ボラ待ち櫓」を組んで漁を行っていた。“とどのつまり”の語源の魚。

（※ オボコ → スバシリ → イナ → ボラ → トド）

【能登ふぐ】／石川県は天然フグの漁獲量が全国トップシェアの18%（平成24年度、第1位輪島市428トン・第4位七尾市212トン・第8位志賀町173トン）で、その大半は七尾湾と能登沿岸で獲れるが、地元ではあまり食べられていない。能登ふぐ事業協同組合（七尾市）と西島フグ縄組合（七尾市）は、平成25年7月5日にトラフグの稚魚1万匹を七尾西湾に放流した。また、8月に調理研修会を開くなど能登ふぐの普及に力を入れている。

【アオリイカ】／秋に能登島東岸や灘浦沿岸の富山湾でよく釣れる。

【飯蛸（イイダコ）】／頭の中に米粒のような卵をつくるのでこの名前がある。

【赤西貝】／イトマキボラ科の巻貝で、標準和名コナガニシ。主に七尾湾とその近海に生息し、刺し網や桁曳き網などで漁獲される。北陸の“海のルビー”と讃えられ、その身の色合いと味わいには定評がある。

【トリガイ】／二枚貝。七尾湾は国内有数の産地で、他産地の標準の大きさが5～6cmなのに対し、七尾湾産は8～10cmで、肉厚で甘味が強いと全国で高い評価を得ている。地元七尾では平成24年（2012）から養殖実験を開始した。市内の漁業権は、能登島2箇所、石崎漁港・中島町に各1箇所設定し、平成26年（2014）から県水産総合センターの支援のもと、養殖を本格化している。

[水産加工品]

【株式会社スギヨ】／全国に名前が知られており、地元七尾の代表的な海産物加工品企業である。明治時代に練り製品の製造を始め、昭和37年（1962）杉与商店となり、株式会社化し、昭和46年（1971）に現社名となる。七尾1店・金沢3店・東京1店の直営店がある。尚、同社が生んだヒーロー「スギヨ仮面」は、人々の健康と食卓を守るため、日々闘っている。

『ビタミンちくわ』／水産加工品の製造販売を主要事業とするスギヨが昭和27年（1952）に発売したアブラザメの肝油かんゆに含まれるビタミンA、Dを配合した商品。

『かにあし』／スギヨの蟹風味蒲鉾かにふうみかまぼこ。以前から販売していた商品を発展させた「香り箱」はズワイガニの脚肉をイメージし“本物の蟹を超えた”と称賛され、平成18年（2006）に第45回農林水産祭の水産部門で最高賞の天皇杯に輝いた。

（街並みと建造物）

現在残る七尾市街地の町並みは、安土桃山時代から江戸時代初期にかけて整備された。町整備に関しては、文禄4年（1595）に所口総構え堀普請は国中惣夫もって掘らせと指示が出されている。翌5年には、府中の蔵々や門の葺板、町奉公人の居住の禁止、川原町・中小池・博労町の町建てなどについても指示が出されている。また、『新修七尾市史』15通史編Ⅱ（近世）掲載の東京都前田育徳会所蔵の七尾町絵図には、現在の神戸川と桜川が旧惣構え堀として描かれている。町の構成は、御祓川を挟んで西には魚よう（うお）まち町・一本杉町・竹町片原町・新町あらまち・木町こん（こめ）まち・味噌屋町・豆腐町などの商人街、東には府中町・鍛冶町ばくろうちょう・塗師町なかおけ・大工町・作事町片原町・川原町・博労町・中小池町・大手町ひもの・桧物町などの職人街を形成している。元和2年（1616）には東西合わせて18町あった。江戸時代を通して、船問屋・海産物商・染物屋・酒屋・茶小売商・素麺商などが商売を行い、所口湊（七尾港）には北前船の往来もあり、能登の交通の要衝として賑わっていた。伝馬制度が整えられると塗師町周辺は宿駅しゆくえきとして栄え、街道が交差していた違い堀の跡に里程元標りていげんびょうが設置されている。

現在は、江戸時代以来の町並みをほぼ踏襲して商店街が形成されている。御

祓川を挟んで東部・西部の各商店街、また御祓川を横断し東西を結ぶ中央通り商店街がある。大型店舗のある七尾駅前周辺は、御祓小学校の移転に伴い新しくできた商圈である。さらには、駅前市街地再開発事業と七尾港に所在する能登食祭市場（フィッシャーマンズ・ワーフ）をつなぐ御祓川沿いのシンボルロード整備によって、人の流れも大きく様変わりしている。

（商店街）

〔一本杉通り商店街〕

一本杉通り商店街は、伝統的な商家の佇まいを残し、イベントにも力を入れて近年知名度が上がっている。毎年4月29日〈昭和の日〉～5月の第2日曜日〈母の日〉にかけて花嫁のれん展が開催され、多くの観光客で賑わう。また、11月3日の文化の日には、光徳寺では報恩講、愛宕山相撲場では明治記念相撲が行われ、光徳寺の門前から御祓川周辺にかけて、秋の大市（別名 お斎市ときいち以前は年の終わりの市なので仕舞市と言っていた）が開かれ、植木市や露店が並ぶ。また、商店街の“語り部処”では、店の歴史や通りについてのいろいろな話を聞くことができる。

● 一本杉通りの国登録有形文化財

【北島屋茶店主屋】／明治37年（1904）頃建築の瓦葺木造建物で、昭和8年（1933）に現在の茶店を開業した。明治38年の“七尾大火”を免れ、腕木構造や、通り庭から入って中の間に付けられた玄関など、伝統的な町屋形式を残す建物として貴重である。平成16年（2004）11月8日登録。

【鳥居醤油店主屋】／明治41年（1908）建築で瓦葺。明治38年の“七尾大火”後に普及した土蔵造りの木造建物。平成16年11月8日登録。

【高澤ろうそく店主屋】／明治43年（1910）頃建築。土蔵造り・瓦葺き。地元特産の「七尾ろうそく」をつくり続けている。平成16年11月8日登録。

【多田家住宅（旧上野啓文堂）主屋】／昭和7年（1932）頃建築。万年筆専門の文具店として建てられ、外観は万年筆やインク壺、ペン先を象った意匠をもつ看板建築。平成16年11月8日登録。

【勝本家住宅主屋】／明治30年（1897）頃建築。明治38年（1905）の“七尾大火”を免れ、腕木構造をもつ。平成17年（2005）11月10日登

録。

【赤倉家住宅主屋】／魚町に所在し、木造2階建てで明治後期の建築。小屋根のぼりはり付きの登梁構造が特徴。2階正面の格子や袖卯建そでうだつなど伝統的な町屋の表構えを残す。平成20年（2008）7月8日国登録有形文化財。

[中央通り商店街]

【春木屋洋品店】／大正10年建築。木造2階建ての洋館で、モルタル仕上げの外観で2階に半円アーチの窓枠を並べるなど洗練された洋風意匠の建造物。平成26年（2014）10月7日国登録有形文化財。

[七尾駅前]

2つの大型施設を中心にした商圈。昭和36年（1961）に整備された七尾駅前広場が、平成19年（2007）の駅前第二再開発事業で新しくなった。

【パトリア】／名は七尾駅前第一再開発ビルで、平成7年（1995）にオープンした。施設名のパトリアはイタリア語で“故郷”の意味。春には4階ホールで「770ななおの雛人形展」があり、幅10m・高さ4.8m・奥行5mの24段の雛段に七段飾り70セット分に相当する人形約1,000体が飾られ、来場者は3万人を超えた。平成29年（2017）2月12日には、ピアゴ七尾店が閉店した。平成30年（2018）1月からは、3階に市役所健康福祉部が入る。

【ミナ・クル】／名は七尾駅前第二再開発ビルで、平成18年（2006）オープン。2階と3階には市役所の市民課や税務課などと市立図書館が入る。パトリアとミナ・クルを連絡する橋の名称は、「あい・あいばし」。

[七尾駅前通り（リボン通り）商店街]

七尾いんにゃく駅から印鑰神社までの南北一直線の商店街で、以前は駅側入口左手（現興能信用金庫七尾支店）に神明社が鎮座していた。7月には七夕飾りで彩られる。七尾駅前通り商店街振興組合の主催で開催される「七夕まつり写生大会」は、平成25年（2013）7月7日で45回開催。

[東部商店街（トンチンカン共和国）]

平成25年春には七尾市東部商店街振興会が、「雛見ひなみの街2013」をパトリ

アなど32箇所の会場で開催。100年前に作られた享保雛などを飾り、スタンブラリーを行う。

- 東部地区の「国登録有形文化財」

【神野家住宅主屋】／塗師町に所在し、昭和9年（1934）の建築。木構造（洋風町屋・瓦葺）。神野啓氏が歯科医院兼自宅として建てた。昭和初期の洋風町屋の様式を伝える。平成17年（2005）11月10日登録。

【春成酒造店主屋】／今町に所在し、昭和9年の建築。木構造（せがい構造・瓦葺）。せがい構造の七尾町屋では最大規模の建物であり、酒造屋敷としての特色を併せ持つ建造物である。平成17年（2005）12月26日登録。

[御祓川大通り]

七尾駅と七尾港を結ぶ延長607mの県道。平成6年（1994）度起工し、並行して流れる御祓川でも平成11年度から景観に配慮した護岸整備が行われてきた。

（市内の主要な建築物）

[民 家]

【懐古館（旧飯田家住宅）主屋】／古屋敷町に所在し、文化・文政年間（1804～29）の建築とされている。木造平屋建て（入母屋、茅葺、平入り）。飯田家は江戸期を通して加賀藩の古屋敷村肝煎を務めた。平成17年（2005）に七尾市へ寄贈された。平成18年3月27日に国登録有形文化財となった。

【座主家住宅】／中島町藤瀬に所在する。茅葺で合掌組入母屋造。江戸時代中期の建築と思われる。昭和46年（1971）12月28日国指定重要文化財となる。座主家は藤津比古神社を鎮守とする神宮寺の座主坊の出自を持ち、近世には藤瀬村肝煎を務めた家柄である。

【室木家住宅主屋・門及び塀】／中島町浜田に所在し、大正元年（1912）の建築。木造瓦葺。門は薬医門形式本柱と控え柱があり、冠木、男梁、女梁からなり、切妻破風屋根がかけられている。塀は切石積の谷積の上から凝灰岩を布積みした部分を基礎として上部に屋根をかけた築地塀形式である。主屋は平成17年12月26日、門と塀は平成18年3月2日に国登録有形文化財となる。

【室木邸（明治の館）】／中島町外そでに所在し、合掌組入母屋造り茅葺屋根の主屋1棟を中心として、納屋2棟、米蔵1棟、土蔵2棟からなる。明治12年（1879）に着工し、明治19年に完成した。室木家は江戸時代には「助左衛門」を名乗り、一時期は天領大庄屋も務めた。昭和38年（1963）7月29日に町指定文化財（現在市指定）となる。

きょうりょう
[橋 梁]

【能登島大橋】／昭和53年（1978）3月13日起工、昭和57年（1982）3月31日竣工。同年4月3日開通式。能登島半浦町と石崎町の間にある屏風瀬戸かきょうに架橋。建設費55億円。道路としては県道（主要地方道 七尾・能登島公園線）に分類される。長さは1,050mで、側面から見ると曲線を描いている（同じ形の橋の例として琵琶湖大橋はしげたがある）。橋桁の下に手取川から引いた水道管が通っている。架橋以前は、昭和41年（1966）7月から昭和57年（1982）5月までフェリーボートが能登島佐波町ー府中町間を1日5回往復していた。平成10年（1998）に無料化。

【中能登農道橋（通称：ツインブリッジのと）】／平成11年（1999）3月27日に開通。能登島通町と中島町長浦を繋いでいる。長さ620m。架橋前には、渡し舟たかも（高毛の渡し）が行き来していた。

【亀橋】／御祓川の郵便局前に架かる橋。江戸時代、郵便局付近には所口町の政務を行う町会所まちかいしよがあった。郵便局の南側に市立図書館と税務署があった。大手町銀座の区画整理に伴い、銀座の飲食店が一時期税務署跡地に集められた。

【仙対橋】（まつりの橋）／現在の橋は平成3年（1991）新築。御祓川に架かる赤い欄干らんかんの橋で、青柏祭の時「でか山」3基が揃う。かつては橋の中央部がやや高くなっており、デカ山が運行するときに難儀したという。江戸時代の橋詰には橋本屋や塩屋といった廻船問屋が並び、川には荷物を運ぶ小舟が行き来していた。

【泰平橋】（あかりの橋）／青柏祭（5月3日～5日開催）の最終日にアトラクション（七尾まだら・七尾豊年太鼓など）が行われる。夏のイベント「御祓川まつり」の大祓いの神事で泰平橋にある高欄の手すりに燭台を設置し、みそぎ姫が火を灯す。

ちようせい
【長生橋】（かおりの橋）／昭和27年（1952）に日本初のプレストレスト・

コンクリート橋として架けられた。平成13年（2011）9月に架け替えられた現在の橋には、香りが楽しめるように香炉が付き、欄干には御祓川源流域に生える江曾档えそあてが使われている。元の橋は希望の丘公園に復元展示されている。

【慶応橋】（かざりの橋）／七尾市の名前の由来となる七つの尾根をイメージしたステンドグラスのパネルをはめ込んである。

【尾湾橋】びわん／平成3年（1991）3月架橋。七尾市街地の川淵通りで、一番北に架かる橋。街灯には、カモメ、ヨットのオブジェが飾られている。

（温 泉）

[和倉温泉]

泉質は、ナトリウム・カルシウムの塩化物泉で弱アルカリ性の源泉は90℃ある。大同年間（806～810）に薬師嶽の西にある丸山（円山）の「湯の谷」から湧き出たことに始まると伝えられ、その後、地殻変動により海中に噴出口ふんしゅつこうが移った。漁師夫婦が湯の気立つ海で、白鷺しらさぎが傷を癒しているのを見て“涌浦”わくうらを発見したという。江戸時代には湯番徒・少五郎（『能登志徴』は庄五郎と記載）が温泉の管理権を握っていたが、明治5年（1872）10月15日（和倉温泉独立記念日）にその権利が和倉村に移った。また、海岸の埋立てが進み、同12年（1879）「湯島」が現在のように陸続きとなっている。平成18年（2006）には開湯1200年を迎えた。湯元の広場には涌浦の炎と時計台が設置される。夜にはライトアップされ、観光スポットとなっている。

【和倉温泉総湯】／平成23年（2011）4月に新しくオープンした。名称の「湯の香 潮の香 総湯館」は、平成22年（2010）10月に応募1,658点の中から選ばれた。高温の源泉を加水せず、水熱交換器を使って源泉100%を保っている。

〔営業時間〕7:00～22:00〔定休日〕毎月25日（土日曜の場合、翌月曜日）

〔入浴料〕大人420円・小学生130円・未就学児50円

〔連絡先〕〒926-0175 七尾市和倉町ワ部5-1 TEL0767-62-2221

【和倉温泉シーサイドパーク】／平成元年（1989）完成。7月中旬から8月後半まで営業。

〔開園時間〕9:00～18:00

〔入園料〕高校生以上600円 小・中学生300円幼児（3歳以上）100円
円シルバー（65歳以上）・身障者400円

〔連絡先〕〒926-0175 七尾市和倉町タ34-1 TEL0767-62-2733

【湯っ足りパーク】／七尾湾を眺めながらくつろげる足湯公園で、足湯の名称を“妻恋舟の湯”と言う。緑地広場にはわくたまくんのオブジェが7体ある。

【加賀屋】／和倉温泉の代表的な旅館。海外にも事業を拡大し、平成22年（2010）12月18日に台湾の地で純和風旅館「日勝生加賀屋」がオープンし、加賀屋が培ってきたおもてなしの心を海外に伝えている。また、平成27年には「第40回プロが選ぶ日本一のホテル・旅館100選」で35年連続総合部門の第1位に輝いた。

〔連絡先〕〒926-0175 七尾市和倉町ヨ部80番地 TEL0767-62-1111

【ひよっこり温泉 島の湯】／対岸に七尾港を望む位置にある。露天風呂から七尾南湾の島々を眺めることができる。

〔営業時間〕9:00～22:00（1月～2月は21:00まで）

〔定休日〕最終金曜日（6月無休）、年末年始

〔入浴料〕大人（中学生以上）450円

小人（小学生）200円・小学生未満 無料

〔連絡先〕〒926-0212 七尾市能登島佐波町ラ部29-1

TEL0767-84-0033

【健康増進センター アスロン】／トライアスロンがオリンピックの正式種目に決まった平成12年（2000）に建設されたことから名付けられた。アスロンとは“競技”の意味である。館内にはプール、フィットネスルーム、温泉鶴の湯がある。

〔営業時間〕10:00～20:00（入館は19:30まで）

〔定休日〕毎週水曜日、12月31日、1日1日

〔連絡先〕〒926-0212 七尾市高田町ち部10番地 TEL0767-68-6788

【なかじま猿田彦温泉 いやしの湯】

〔営業時間〕10:30～21:30 〔定休日〕火曜

〔入浴料〕中学生以上510円・3歳以上小学生以下220円・2歳以下無料

〔連絡先〕〒929-2214 七尾市中島町小牧ヨ部116番地

TEL 0767-66-8686

（教育・文化施設）

【石川県七尾美術館】／小丸山城跡を望む台地に、能登初の総合美術館として平成7年（1995）4月にオープン。市の名前に由来する七尾城山の尾根をイメージした7つ屋根と地元特産の珪藻土をモチーフとした外観で親しまれている。近年特に注目されている長谷川等伯の作品を所蔵・研究し、翌平成8年から「長谷川等伯展」を毎年行っている。平成17年（2005）には開館10周年と第10回記念を兼ねて、国宝・松林図屏風が地方で初めて公開され、平成24年（2012）には山水図襖が公開された。

また、池田コレクションや能登ゆかりの作家の作品を多数所蔵。また、平成25年で16回目を数える、イタリア北部の古都で開かれるコンクールの入選作品を集めた「イタリア・ポローニャ国際絵本原画展」など、特色ある展覧会を行っている。

「あたごこんげんず愛宕権現図」、「ちんきいすいす陳希夷睡図」、「ぜんによりゆうおうす善女龍王図」、「さんすいす山水図」に加え、平成27年（2015）に長谷川等伯筆の「しょうちくすびょうぶ松竹図屏風」、「えんこうすびょうぶ猿猴図屏風」が新たに所蔵品に加わった。平成27年4月18日より5月10日まで開館20周年記念で日本障壁画の最高傑作といわれる国宝「きん楓図壁貼付」を公開。

〔開館時間〕9:00～17:00（入館は16:30まで）

〔定休日〕月曜日（祝休日を除く）、祝休日の翌日（土日を除く）、展示替期間、
年末年始 ※展覧会によって会期中無休

〔入館料〕展覧会によって異なる

大人800円以内・大学・高校生350円以内・中学生以下無料

〔連絡先〕〒926-0041 七尾市小丸山台一丁目 TEL0767-53-1500

【石川県能登島ガラス美術館】／平成3年（1991）7月開館。建物は建築家・もつなきこう毛綱毅曠が設計し、宇宙基地を思わせる外観が特徴。ピカソやシャガールなど著名な芸術家の原案を基にしたガラス彫刻を展示している。

〔開館時間〕9:00～17:00（12月～3月は16:30まで）

〔定休日〕第3火曜日（祝日の場合翌日休、8月無休）、展示替期間、
12月29日～1月1日

〔入館料〕高校生以上800円（団体700円）・中学生以下 無料

〔連絡先〕〒926-0211 七尾市能登島向田町125-10

TEL 0767-84-1175

【七尾城史資料館】／七尾城跡から出土した遺物を一堂に集めた資料館。

敷地内にある旧・樋爪邸茶室は、半畳ほどの広さの“日本一小さな茶室”で、大正時代に京都・高台寺こうだいじの傘亭を手本に造られたという。

〔開館時間〕9:00～17:00（入館は16:30まで）

〔定休日〕月曜（祝日の場合翌日）、祝翌日、12月11日～3月10日

〔入館料〕大人200円（団体160円）・中学生以下は無料

〔連絡先〕〒926-0024 七尾市古屋敷町シカマ藪8番地2

TEL 0767-53-4215

【懐古館】かいこ〈旧飯田家住宅主屋〉／加賀藩きもいりの肝煎てんりょう（天領しょうやでいう庄屋）をしていた飯田家の旧宅で、江戸時代後期の文化・文政年間（1804～30）に建てられた。代々伝わる様々な生活道具を展示している。平成18年（2006）3月27日国登録有形文化財に指定された。

〔開館時間〕9:00～17:00（入館は16:30まで）

〔定休日〕月曜（祝日の場合翌日）、祝翌日、12月11日～3月10日

〔入館料〕一般200円（団体160円）・中学生以下無料

〔連絡先〕〒926-0024 七尾市古屋敷町夕部8番地の6

TEL0767-53-6674

【能登国分寺展示館】／能登国分寺公園内にある施設。発掘調査で出土した瓦、建築材、和同開珎などを展示しており、周辺の関連する遺跡も紹介している。

〔開館時間〕9:00～17:00（入館は16:30まで）

〔定休日〕火曜（祝日の場合開館）、12月11日～3月10日

〔入館料〕一般200円（団体160円）・中学生以下 無料

〔連絡先〕〒926-0821 七尾市国分町り部9番地 TEL0767-52-9850

【祭り会館】／杵旗祭りを紹介した資料館で、「お祭り資料館」と「お祭り伝承館」の2館で構成される。「お祭り資料館」では、20mを超す高さの杵旗を展示し、猿田彦（天狗）の面や祭具も見ることができ、ビデオ上映も行っている。「お祭り伝承館」の展示室では、中島の歴史を紹介している。

〔開館時間〕9:00～17:00（入館は16:30まで）

〔定休日〕月曜日（祝日の場合翌日）、12月11日～3月10日

〔入館料〕大人500円・高校生400円・小中学生300円

〔連絡先〕〒929-2226 七尾市中島町横田1部148番地
TEL0767-66-2200

【蝦夷穴歴史センター】／蝦夷穴古墳の出土品だけでなく、能登島全体の歴史を概観できる。※平成31年3月まで臨時休館中。

【のと里山里海ミュージアム・能登歴史公園公園センター】／平成30年10月28日に能登歴史公園（国分寺地区）内に開館した。能登の豊かな自然環境と地域に根差した風習、歴史、文化を広く知ることができる。公園センター内には、能登の祭礼や観光情報を展示する百景棚を設け、能登の情報発信コーナーとしての機能もある。

〔開館時間〕9:00～17:00

〔定休日〕火曜、12月29日～1月3日

〔入館料〕無料

〔連絡先〕〒926-0821 七尾市国分町イ部1番地
TEL 0767-57-5100

【明治の館】／明治12年(1879)から8年の歳月をかけて同19年(1886)完成。合掌組入母屋造りで茅葺屋根の“室木邸”。天領だった外村の室木家は、江戸時代に百姓代や組頭、さらには庄屋を務めた大地主で、広大な山林を所有し、廻船業や酒造業も営んで隆盛^{りゅうせい}を極め、明治時代には当主が国会議員になった。漆塗りの太い梁や柱などが輝く縹ケヤキ造りの建物は、和風建築の風格を感じさせる。昭和38年7月29日町指定文化財（現市指定）。

〔開館時間〕9:00～17:00（入館は16:30まで）

〔定休日〕月曜日（祝日の場合、翌日）、12月11日～3月10日

〔入館料〕一般300円（団体200円）・小中高生100円（団体50円）

〔連絡先〕〒929-2213 七尾市中島町外ナ部13番地
TEL0767-66-0175

【能登演劇堂】／無名塾を主宰する俳優・仲代達矢が監修して設計した。演劇を目的とする建物で、平成7年（1995）5月に開館。舞台後方の野外空間を利用した演出を可能にしたプロセシニアムステージ形式のホールは、演出に欠かせない音響設備も整っている。収容人員651名。舞台と観客席の面積比率が1対1で舞台俳優が演技し易いよう配慮されている。演劇文化の発信地として、様々な公演が行われている。

〔案内窓口〕 公益財団法人 演劇のまち振興事業団

〔連絡先〕 〒929-2222 七尾市中島町中島上部9番地

TEL0767-66-2323

（観光施設）

風光明媚な能登の自然を観光に生かそうという取組みは、昭和43年（1968）の「能登半島国定公園」指定により本格化する。

【能登食祭市場】（通称：七尾フィッシャーマンズ・ワーフ）／海の玄関口・七尾港の波止場に、平成3年（1991）9月21日にオープンした、港町七尾を象徴する観光施設。フィッシャーマンズ・ワーフとは、“漁師の波止場” という意味である。平成14年（2002）に改修工事を行い、平成25年（2013）4月に新しい施設を加えリニューアルオープンした。

入館者は、平成5年（1993）の93万人をピークに、近年はほぼ横ばいとなっているが、のと里山海道の開通などもあり、さらなる増客が見込まれる。1階には、能登生鮮市場と能登銘産・工芸館、浜焼きコーナーを備えた里山海小路、イベントを行えるモンレー広場やモンレーミュージアムがある。2階は能登グルメ館で、各種料理を味わえる。正面玄関に日本一大きい七輪を展示してある。

また、観光船が出ていて、能登の里海を間近で楽しむことができる。

〔営業時間〕 8:30～18:00（2階飲食店〈グルメ館〉は、18:00以降も営業するが、店舗によって異なる）

〔定休日〕 火曜日（祝日の場合営業）元日 但し7～11月無休

〔連絡先〕 〒926-0041 七尾市府中町員外13-1 TEL 0767-52-7071

■ 観光船「Sea Bird」（19トン、旅客定員70人）

びわん
尾湾観光株式会社 TEL 0767-52-7008

【道の駅 のとじま交流市場】／平成26年（2014）4月25日 リニューアルオープンし、1階の八太郎漬はったろうづけなど能登島の農・海産物や加工品、ガラス工芸品、陶器の販売エリアに新しく浜焼きコーナーが加わり、2階には地元の食材を生かした140人収容可能レストランにバーベキューを楽しむことのできる野外浜焼きコーナーが併設された。

〔営業時間〕 9:00～17:00

〔定休日〕 12月～3月は第2木曜、12月29日～1月1日

〔連絡先〕 〒926-0211 七尾市能登島向田町122部14番地

TEL 0767-84-0225

【のとじま水族館】(正式名称:のとじま臨海公園水族館)／昭和57年(1982)開館。海の自然生態館にある高さ7m×幅12mの大水槽「魚の群れと海藻の森」では、1万尾の群れが集散する「マイワシのビッグウェーブ」を見ることができる。

平成22年(2010)8月20日に、水量1,600t、最深部6.5mで日本海側最大のパノラマ大水槽をもつジンベエザメ館“青の世界”がオープンした。ジンベエザメは世界最大の魚類である。平成22年7月19日に体長4.8mのジンベエザメが佐々波町の定置網に入り、移送用水槽で漁港に運ばれて、さらにトラックで水族館へ運ばれた。平成23年10月16日に「ジンベエザメの愛称命名式」が行われ、サザベエと命名された。平成24年9月からはモモベエとオトベエの日本海側唯一となる2頭のジンベエザメが飼育展示されていたが、平成28年8月現在では、モモベエとイオリの2頭が飼育展示されている。

平成24年(2012)にはクラゲを幻想的に見せる「クラゲの光アート」コーナーが完成した。ほかにも「マイワシの大魚群(ビッグウェーブ)」や500～1万匹のゴンズイ、マダイ、マイワシの群れが一斉に泳ぎ回る「のとじま舞踏会」などの展示がある。また、「イルカ・アシカショー」、「カワウソのおやつタイム」やマゼランペンギン5羽が館内往復150mを1日3回歩く「ペンギンのお散歩タイム」、「アザラシとのふれあい体験」などのイベントを随時行っている。

〔開館時間〕 9:00～17:00(12月1日～3月19日は16:30まで)

〔定休日〕 無休 〔入館料〕 大人1,850円・中学生以下3歳以上510円

〔連絡先〕 〒926-0216 七尾市能登島曲町15部40

TEL 0767-84-1271

【のと蘭ノ国】／ドーム型の温室「蘭遊館」で8千種1万株の蘭が育てられている。日本グラウンドゴルフ協会認定32ホール、日本パークゴルフ協会公認18ホール常設。

〔営業時間〕 9:00～17:00

〔定休日〕 木曜（祝日の場合営業）、12月31日、1月1日、1月～2月蘭遊館は休館

〔入館料〕 蘭遊館、食遊館共に入場無料

〔連絡先〕 〒926-0822 七尾市細口町渡リスイ153

TEL 0767-54-0300

【花嫁のれん館】（馬出町）／平成16年（2004）に、4月29日（昭和の日）から母の日（5月第2日曜日）にかけて、一本杉通りを中心にして行われるようになった花嫁のれん展（期間中には花嫁道中もある）。従来の150枚を170枚に、商家や民家の展示場所50箇所を56箇所に拡大して開催された。「のれん」の展示を常設にできないかと平成24年（2012）に空き店舗を活用し、一本杉町で開館。

平成28年（2016）4月9日に馬出町で七尾市中心市街地観光交流センターが新築オープンした。この施設は、花嫁のれん館（展示棟）と寄合い処みそぎ（交流棟）の2棟からなる。

花嫁のれん館は、能登に伝わる婚礼文化の見学や体験施設。寄合い処みそぎは、地域住民の集いや交流、空間観光客の休憩や交流を目的とした施設。

[花嫁のれん]

以前は「嫁のれん」と言っていた。加賀・能登・越中に見られる風習で、花嫁が嫁入り道具として持参したのれんが風になびく様子から、婚家に早く馴染むようにとの願いが込められている。のれんは婚家の納戸や仏間なんどの入り口に掛けられ、玄関で水合わせや両家の挨拶が済まされた後、花嫁はのれんをくぐり仏間で手を合わせる。以前は、のれんが掛けられるまで家には入れなかったほど重要な儀式であった。

尚、「花嫁のれん」という名称は、平成22年（2010）に一本杉通り振興会が商標登録しており、他では使用出来ず、例えば金沢市で企画展を行う場合は「花のれん」などという名称を主に使っている。

[野生のイルカ]

平成13年（2001）頃から、七尾北湾の能登島向田町と能登島祖母ヶ浦町

の沖に野生のミナミバンドウイルカの夫婦が棲みつき、平成25年現在親子9頭で暮らしていて、イルカウォッチングができる。

(スポーツ施設)

【七尾城山運動公園】／七尾城山総合運動場は昭和33年(1958)完成。七尾城山体育館は昭和46年(1971)完成。そのほか城山野球場や城山水泳プールなどがある。

〔連絡先〕〒926-0027 七尾市後畠町(後畠山)ハ4-5

TEL 0767-52-6419

【七尾総合市民体育館】／昭和60年(1985)3月25日完成。バスケットボール・バドミントン・バレーボール・テニス・ハンドボールの各コート、トレーニングルーム・ランニングコース。

〔連絡先〕〒926-0852 七尾市小島町西部4番地 TEL0767-53-4242

【七尾武道館】／平成3年(1991)7月7日完成。剣道場・柔道場・弓道場・研修室。

〔連絡先〕〒926-0852 七尾市小島町西部5番地 TEL0767-52-7687

【和倉温泉運動公園 多目的グラウンド】／平成22年(2010)完成。FIFA公認人工芝のサッカー用グラウンド3面。フットサル2面。ビーチサッカー場1面

〔連絡先〕〒926-0171 七尾市石崎町チ部32番地1

TEL 0767-62-0999

【和倉温泉運動公園 テニスコート】／平成27年(2015)7月26日完成。テニスコート24面。

〔連絡先〕〒926-0171 七尾市石崎町泉台2番地 TEL0767-62-0909

【七尾市能登島マリンパーク海族公園^{うみぞく} 多目的グラウンド】／平成9年(1997)完成。多目的天然芝グラウンド1面(サッカー利用可)。

〔連絡先〕〒926-0212 七尾市能登島佐波町う部29-2

TEL0767-84-1113

【能登島グラウンド】／平成25年(2013)3月完成。人工芝サッカー用グラウンド2面。フットサル2面。テニスコート3面。

〔連絡先〕〒926-0211 七尾市能登島向田町馬付ヶ谷内31

TEL 0767-62-0999

【湖畔公園コロサ】／多根ふれあいセンター「山びこ荘」は、平成10年(1998)完成。多根ダムや平成11年(1999)に完成した能登で唯一の本格的な七尾コロサスキー場がある。

〔連絡先〕〒926-0034 七尾市多根町ハカノ谷内 555-7

TEL 0767-57-0022

(産業施設)

【七尾市公設地方卸売市場】／昭和60年(1985)11月1日に開場。

〔連絡先〕〒926-0006 七尾市大田町 111 部 25 TEL0767-53-4433

(仲代達矢と無名塾)

無名塾は、東京都世田谷区・仲代劇堂にある。昭和50年(1975)春、仲代家の庭に建つ稽古場に若者達が集まりレッスンが始まったことを契機とし、「名も無い塾」だからと、無名塾と命名。

昭和58年(1983)に俳優の仲代達矢・宮崎恭子(隆巴)^{やすこ りゅうともえ}夫妻が能登に旅行に来た時、当時の中島町に立寄り、仲代氏が「この素朴な土地で演劇の稽古ができたらどんなにいいだろう。」と思ったことが契機となって昭和60年(1985)から無名塾の中島合宿が始まった。無名塾は、その後、能登での本拠地・能登演劇堂で、平成7年(1995)に結成20周年を兼ねて柿落し^{こけら}として「ソルネス」を公演した。平成9年(1997)と平成17年(2005)には、第1回目と第3回目のロングラン公演として「いのちぼうにふろう物語」(原作／山本周五郎『深川安楽亭』、脚本／隆巴)を演じた。平成13年(2001)の第2回公演は「ウインザーの陽気な女房たち」、平成21年(2009)の第4回ロングラン公演ではシェークスピアの「マクベス」を50回演じるなど精力的な活動を行った。平成25年には、シェークスピアの名作「ロミオとジュリエット」を第5回目のロングラン公演として行った。平成29年には、第6回目のロングラン公演として「肝っ玉おっ母と子どもたち」を行った。

なお、仲代達矢氏は、長年にわたって七尾市の芸術文化発展のため多大な功績があったということで、平成20年(2008)1月25日に平成の合併後初めて“名誉市民”の称号が贈られた。また、仲代達矢氏は、平成19年(2007)

には文化功労者に選ばれ、平成27年（2015）には文化勲章を受章した。

（行 事）

[イベント]

【七尾港まつり】／7月20日の旧七尾市制記念日を中心に、七尾港の発展を祈願し平和に感謝して行われる。昭和16年（1941）市祭に決定した。平成30年で77回目を迎え、七尾港の府中埠頭では「ちびっこカーニバル」「七尾港ベイサイドミュージック」「北國花火七尾大会」、七尾市街を流れる御祓川界隈では「子どもちょうちん行列 in 御祓川大通り」や「総踊り」が行われる。

【七尾城まつり】／昭和17年から始められ、平成30年で77回目を迎える。9月の第3日曜日に開催され、昔は、前夜祭としては車で触れ太鼓をしながら市内を宣伝して回っていた。本祭では本丸跡にて演舞や詩吟大会などが催される。

【モンレージャズフェスティバル（MJF）イン能登（inNOTO）】／“ジャズの香る港町・七尾”と銘打ち、7月下旬に七尾マリンパークで行われる音楽イベントで、平成元年（1989）にモンレー市と和倉温泉観光協会のジャズを通しての交流から始まった。音楽を学ぶ学生から著名アーティストまでが七尾港で熱演を繰り広げる。

本場モンレー市以外で唯一、Monterey Jazz Festival の名称を許されている。

【能登よさこい祭り】／初夏の頃、和倉温泉街で“能登は一つ ^{うち} 風土の唄で 踊れよさこい ただ狂え”をテーマに毎年行われている。平成25年で17回を迎え、6月8日に新潟県から高知県まで51チーム2,000人の演技者が参加して行われた。元は、昭和45年（1970）から始まった和倉音頭を踊る夏祭りの「かいかい祭」で、平成9年（1997）からよさこいの踊りが加わって発展した。

【如月^{きさらぎ}おいしんぼ市】／毎年2月に能登食祭市場で行われる。かつては、横綱・^{はくほう}白鵬と輪島大士氏のトークショーがおこなわれていた。

【七尾湾能登かき祭】／牡蠣が旬を迎える1月～3月に中島市街地周辺の協賛飲食店で行われる。特別イベントは能登演劇堂前広場で総延長100メートル超の炭火焼きコーナーを用意し、平成30年（2018）は、2月24日と25

日に開催された。

【のとしま手まつり】／10月中旬に能登島家族旅行村Weランドで行われる。クラフト作家が集まるクラフトマーケットで、平成18年（2006）から始まった。頭文字を取って「のて」の愛称で呼ばれる。

【能登島ごっつおまつり】／2月中旬ごろ、鱈きしゅうこせんの入った起舟御膳が味わえる。

【国民文化祭】／第7回国民文化祭・石川'92で国民文化祭初の香りのイベント「世界の香りフェアIN能登」が平成4年（1992）10月30日に七尾市で開催され、その日を「香り記念日」としている。

[花 火]

和倉温泉では、毎年夏花火が8月第1木曜日に開催され、北陸最大級の空中・水中三尺玉（30号玉）をはじめ3000発が打上げられる。

1月開催の冬花火は、平成29年から、4月第1土曜日に春花火として再スタートし、スターマインなど多彩な1500発が打上げられ、大鍋無料振る舞いなどがある。

[スポーツイベント]

【能登和倉万葉の里マラソン】／以前「なかじま万葉の里マラソン」として旧・中島町で21回行われた大会を引き継ぎ、ハーフをフルマラソンに変えて平成21年（2009）3月8日に初めて行われた。年々参加者が増えており、波穏やかで風光明媚な七尾湾岸の景観を楽しみながら走る春のスポーツイベントとして定着した。

種目は、フルマラソン（制限時間7時間）、10km、小学生の親子ペア1.2kmで競われる。

【能登島ロードレース大会】／ハーフマラソン（21.0975km）が7月第1日曜日に開催される。10km種目は平成30年から廃止された。

[今まで行われたスポーツなどの大会]

【石川国体】／平成3年（1991）に第46回国民体育大会が、国体史上初の県内全市町村（当時7市32町村）開催で行われ、七尾市域ではバスケットボールが競技種目となった。

【ねんりんピック】／平成22年(2010)10月9日から4日間、第23回全国健康福祉祭いしかわ大会(ねんりんピック石川2010)が開催され、七尾市ではサッカーが競技種目となった。

【日本スポーツマスターズ】／競技志向の高いシニア世代のスポーツの祭典「日本スポーツマスターズ2011石川大会」が平成23年9月16日から20日にかけて開催され、七尾選抜チームは、軟式野球で優勝した。

【インターハイ】／平成24年(2012)8月に北信越かがやき総体が開催され、和倉でヨット競技が行われた。

(史 跡)

なな おしろうあと
[七尾城跡]

古府町・古屋敷町・古城町・竹町・小池川原町・矢田町の広範囲の地内に位置し、七尾南湾の沿岸から南東4kmの位置に広がる中世の城跡で「七尾城址」とも言う。16世紀初め頃に能登守護畠山氏によって本格的に築かれ始めたと言われている。

「七尾」の地名は、永正11年(1514)12月に畠山義元の奉行人だった隠岐統朝・三宅俊長が「大呑北庄御百姓」に送った年貢の十分の一を永代免除にした文書に初めて現れる。その由来となる尾根については、幕末から明治時代にかけて活躍した郷土史家・森田柿園の記した『能登志徴』に、「菊ノ尾・亀ノ尾・松ノ尾・虎ノ尾・竹ノ尾・梅ノ尾・竜ノ尾の七つの尾根」の総称とあるが、江戸時代中期に書かれた『能登紀行』などには「烏帽子の尾・袴の尾・牛の尾・鶴の尾」の名称もある。大永6年(1526)に「七尾城」と書かれ、城の存在が確実となり、さらに戦国時代末期に城の増強が図られ、弘治3年(1557)に能登守護畠山氏の9代義綱は「当城いよいよ堅固に候」と文書に記している。天正5年(1577)に越後国守護で春日山城主だった上杉謙信に攻められて落城した。伝説によると、謙信が七尾城を取り囲んだ時、山頂から麓にかけて白い水が滝のように流れ落ちてきたので、謙信は城にまだ水があると諦めて越後へ戻ろうとしたが、カラスが群がったので水ではなく米と分かり、一拳に城に攻め寄せたという(白米城伝説)。その後、天正9年(1581)能登国に入った前田利家が城の機能を湊に近い小丸山に移し、城郭の城破りを行い廃城とした。

七尾城の規模は、北を木落川、南を大谷川が流れ、その2つの川に挟まれた範囲を中心に300箇所以上の平坦地である曲輪くるわ（郭）があると考えられる。南北2.5km、東西0.8kmで、その総面積は200haに及ぶ。標高約300mの位置に本丸があり、西に向かって二の丸・三の丸・桜馬場さくらのばば・調度丸ちようどまる・伝遊佐屋敷でんゆうさやしき・伝温井屋敷でんぬくいなど自然石を加工せずに積み上げた野面積の総石垣のづらづみの郭れんかくしきが連なった連郭式縄張りを持ち、その周囲を補助的な曲輪で補強し、さらに石垣をもたない小さい曲輪が麓まで続いている。北東側の旧道を大手道とするが、大谷川方面の桜馬場西側（温井屋敷南側）にも巨石（九尺石）を配置した虎口こぐち（出入口）を持つ道がある。

城下町の繁栄や七尾湾に向かって風光明媚な景色が広がる様子は、天文13年（1544）に京都・東福寺とうふくじの前住持・彭叔守仙じゅうじ ほうしゅくしゆせんが記した漢詩文『独楽亭記』どくらくていきから窺い知ることができる。それによると、家並が一里（4km）ほど連なり、色々な品物を売り買いする人で大変賑わっていたという。近年の発掘調査によって、豊かな文化が育まれた城下町の様子が次々に明らかにされている。

七尾城は、「七尾」の地名の由来となった城で、市の象徴的な城跡であり、“国内最大級の山城”とも言われている。昭和9年（1934）12月28日国指定史跡（平成27年3月現在の指定面積は26.6ha）。平成18年（2006）に日本100名城に選定され、春日山城（越後、上杉氏／新潟県上越市）がっさん・月山富田城とだじょう（出雲、あまこ、尼子氏／島根県安来市）かんのんじ・観音寺城（南近江、六角氏／滋賀県安土町）おだに・小谷城（北近江、浅井氏／滋賀県長浜市）と並んで日本五大山城の一つとして評価が高い。

[小丸山城跡]

馬出町・小島町一丁目に所在し、標高20m前後の平山城ひらやまじろで、「小丸山城址」とも言う。天正9年（1581）8月に織田信長によって越前府中（現・福井県越前市の内）の城主から能登国主となった前田利家が、天正10年（1582）に、湊に近い所口の丸山に築き始めた城である。越前府中から七尾へ妻「松」ほうしゆんいん（芳春院）を伴って七尾に移ったのは10月頃とされている。だが、当時は、“七尾城”と呼ばれていたらしく、七尾の守りを任された利家の兄・安勝やすかつが、文書に「七尾」にいると書かれてある。小丸山城の名称は、正保3年（1646）しょうほうに書かれた「石崎村獵師頭百姓五左衛門等覚書」中に「七尾小丸山御居城」の

文字が文書で確認されるものが最初である。

元は小高い一つの山だったと考えられるが、築城の過程で、小丸山（本丸 現在は小丸山第一公園）・西光寺山（二の丸に相当する。同第二公園）・愛宕山（三の丸に相当する。同愛宕山相撲場）・御貸屋山（同住宅団地）の4つの地区に分割された。城の普請奉行は、片山伊賀守延高と村井豊後守長頼であった。

利家が城主だった期間は1年半ほどで、天正11年（1583）4月に利家が豊臣秀吉から賤ヶ岳合戦の功により加賀国の内で河北・石川2郡を加増されて金沢に移ると、前田安勝が城代として能登支配の任を担った。その後、利家の次男・利政の居城となったが、関ヶ原の戦いで改易されると、利家の三男・知好が城代として城を預かった。その知好も大坂夏の陣後に城を出奔したため城を預かる主が不在となり、元和元年（1615）の「一国一城令」を契機として、元和2年（1616）に廃城となったとされる。

大正9年（1920）七尾町の自然公園に指定されて「小丸山公園」となり、現在では市内随一の桜の名所として親しまれている。平成14年（2002）のNHK大河ドラマ『利家とまつ』放映を記念して前田利家・松子（まつ）夫婦の銅像が建立されている。平成26年（2014）4月に「小丸山城址公園」と名称変更された。

《城跡と城址》

現在、一般的には「城跡」と書かれる七尾城と小丸山城だが、昔は「城址」と書かれることが多かった。例えば、昭和3年（1928）発行の『石川県鹿島郡誌』には「七尾城址」「小丸山城址」と表記されているし、昭和17年（1942）10月20日に建立された七尾城本丸の石碑の文字も「七尾城址」である。では、漢字の意味として跡と址の違いはあるのだろうか。どちらも訓は“あと”であるが、址（趾）には「基」の意味が加わり、石垣など城の土台が残る遺跡を指すに相応しい。尚、跡は蹟と同じ意味なので、以前は「遺跡」を「遺蹟」とも書いていた。

（遺 跡）

[寺院跡]

【千野廃寺跡】（千野町）／能登国分寺と同じ型の瓦が出土したため、国分尼

寺跡や官衛跡と推定されている。昭和34年(1959)11月3日市指定史跡。

[古墳]

【万行遺跡】(万行町) / 県内最古の縄文時代から近世まで続く遺跡で、市内でも古くから知られている。大正11年(1925)には縄文土器の出土が報告されている。近年の発掘調査により古墳時代初頭の国内最大規模の大型掘立柱建物群が見つかった。整然と立ち並び海に面していることから、倉庫群と推定される。平成15年(2003)8月27日国指定史跡、平成16年2月27日追加指定。

【須曾蝦夷穴古墳】(能登島須曾町) / 七尾南湾と鹿嶋津(古代の七尾港)を望む標高78mの丘陵中腹に所在する。雄穴・雌穴の2つの横穴式石室をもつ方墳である。南北17.05m、東西18.65m、高さ約4m。石室は、安山岩質板石を隅三角持ち送り技法で構築し、天井が湾曲したドーム形で奥行が短く、朝鮮半島の高句麗様式石室に類似する。石室羨道から出土した須恵器や直刀片から7世紀中頃～後半の築造とみられる。昭和56年(1981)1月27日国指定史跡。

【上町マンダラ古墳群】(中島町上町) / 熊本川西側の丘陵、中島小学校の近くに位置する2基の前方後方墳。1号墳は全長18m(前方部の長さ6m、後方部の長さ12m)、後方部の高さ1.6mを測る。2号墳は全長21m(前方部の長さ8m、後方部の長さ13m)、後方部の高さ1.8mで、古墳時代前期の土師器が出土している。1・2号墳とも周溝をもつ。昭和55年(1980)10月7日県指定史跡。

【院内勅使塚古墳】(下町) / JR徳田駅から南東130mにあり、県内でも珍しく天井石が完全に残った横穴式石室は“能登の石舞台古墳”とも言われ、北陸地方で最大級を誇る。墳丘の規模は長辺23m、短辺21.8m、高さ3.7mで、異なる種類の土を交互にたたき締めて盛り上げる版築工法を用いた二段築成の方墳である。周囲には幅6m、深さ1.8mの周濠が巡っている。7世紀前半に能登臣氏の墳墓として築かれたとされる。昭和47年(1972)3月21日県指定史跡。

【高木森古墳】(矢田町) / 七尾市街地から1.5km東にある市内最大の前方後円墳。全長59m、後円部の直径が最大で約36m、後円部の高さが最大

で約7mである。発掘調査で、後円部から石室に利用した海石・床に敷いた板石などが出土した。須恵器の装飾器台・罌かん かめ・甕つき、土師器の坏などの出土遺物によって5世紀末から6世紀初頭に築かれたと考えられる。昭和34年(1959)11月3日市指定史跡。

【三室まどがけ古墳群】(三室町)／七尾南湾に面して分布する。「三室古墳群」を構成する一支群が、三室まどがけ古墳群である。この内、崖上にある1号墳は古くから知られ、昭和32年に市内初の古墳の発掘調査が行われた結果、墳丘の土や天井石は失われていたものの、直径約25m、高さ約5mの円墳であったことが明らかとなった。横穴式石室には海石を使用し、出土遺物に玉類・金属耳環じかん・直刀てつぞく・鉄鏃すえき・須恵器・土師器などがある。2号墳は、がけ上に1号墳と近接して、墳丘がほとんど失われた状態で発見されたが、直径約12mと推定される。出土品に耳環・鉄鏃・弓金具とうす・刀子・釣針・須恵器・土師器・人骨などがある。3号墳は、がけ下で発見され、耳環・須恵器・土師器・人骨などが出土した。以上の3基は、いずれも横穴式石室で古墳時代後期から終末期にかけて築かれた。現在2・3号墳は移築保存され、古墳公園として整備されている。昭和34年(1959)11月3日市指定史跡。

【国分尼塚古墳群】(国分町)／七尾市街地南西の徳田段丘の国分丘陵先端部に築かれる。前方後方墳二基と方墳一基からなる。二基の前方後方墳は1981年(昭和56)～1984年(昭和59)に富山大学考古学研究室によって発掘調査がされた。一号墳は全長52.5mで、長大な割竹形木棺が据えられていた。副葬品には中国製の夔鳳鏡一面、弓矢を入れる鞆、銅製と鉄製の鏃、鉄製の鎗・短刀・短剣、その他鉄斧・ヤリガンナ・鑿の工具、漁労具のヤス、勾玉、管玉など多彩なものが納められていた。やや規模が小さい二号墳からは、管玉と共に小型仿製鏡が出土している。

【矢田丸山古墳】(矢田町)／埴輪はにわの破片が採集されている。同じ矢田古墳群には高塚古墳や芋塚古墳、矢田中瀬古墳支群などが所在する。

[その他の重要な遺跡・史跡]

【赤蔵山】(三引町)／平成3年(1991)10月4日県指定史跡。地名の「アカ」は梵語ほんご(古代インドの言葉。サンスクリットとも言う)で「水」、「クラ」はその水が無尽蔵にあることを指す。また、伝説によれば、戦国時代に戦いに

敗れた武将が馬もろとも入水した底無し池に、元旦未明になると水面に赤い鞍が浮かんだことに因むという。

信仰の山としては、天平2年(730)に聖武天皇が東宮(皇太子)の眼病治療のため祈願を行い、神殿を建てたことに始まる。この時治療に使った湧き水が、全国名水百選にも選ばれた御手洗池である。平安末期、後白河天皇の治世に、寺号を赤蔵山上一本宮寺と称し、120の坊舎があったという。南北朝時代の観応の擾乱や、天正年間に上杉謙信によって攻められた時に、焼け落ちたと伝える。江戸時代前期に長連頼によって再興され、長家の祈願所となった。万治2年(1659)建立の赤蔵山中腹にある赤蔵山上一本宮寺講堂が、明治元年(1868)の神仏分離令により赤倉神社拜殿(市指定文化財)となった。

頂上に鎮座する赤倉神社本殿(市指定文化財)をはじめ、中腹に仁王門、山麓に宝物殿(元龜山天神堂)といった建造物があり、白山社跡・神明社跡などの遺跡も多く残る。参道の石畳は、能登島の住民が寄進し運んだものという。真言宗寺院の怡岩院や栄春院では、長家菩提所として法灯を今に伝えている。

【能登国分寺跡附建物群跡】(国分町・古府町) / 七尾南湾から南に約2kmの位置にある。その歴史は、承和10年(843)に能登国司・春枝王が能登臣氏の私寺で、律令国家の援助を受ける定額寺だった大興寺を昇格させ国分寺としたことに始まる。これは天平13年(741)に聖武天皇が世の中の平和と五穀豊穰・悪疫退散を祈願して「国分二寺(僧寺・尼寺)建立の詔」を出してから実に102年後のことであった。その後、元慶6年(882)10月25日に激しい雷やつむじ風に遭い堂舎が壊れたため修理したと『三代実録』にある。そして平安時代末の12世紀、王朝貴族の時代の終焉とともに能登国分寺もその役割を終えた。

昭和45年度から平成2年度まで20年に及ぶ発掘調査によって、南北160m、東西200mの寺域の内部に、南門に向かって、右手に塔跡(心礎は“エボ石”(いぼ石)と呼ばれていた)、左手に金堂跡(通称“草塚”)、中央の講堂と中門とを回廊でつなぐ、法起寺式伽藍配置をもつことが明らかになっている。古代の役所に関係のある礎石建物3棟とともに4.6haが昭和49年(1974)12月23日国指定史跡となった。傍には、能登国分寺展示館があり、芝生の広場周辺は、市民の憩いの場となっている。

【閨行者端五輪塔群】 / 能登島閨町に所在し、閨観音堂石塔群から北へ50

0m行った地点にある室町時代初期の五輪塔3基。地名の“行者”は能登島出身の奈良時代の修験者で、白山や石動山を開いた泰澄の弟子 臥行者ふせりのぎょうじゃを指す。「聞」の地名も行者端で臥行者が身を臥せて修業したという言い伝えによる。昭和49年11月5日町指定文化財（現在市指定）。

【向田真光寺石塔群】／能登島向田町に所在し、十数基の五輪塔群が所在する。また、大日如来を刻む板碑は室町前期の造立そうりゅうと推定されている。昭和49年11月5日町指定文化財（現在市指定）。

【小牧白山社中世墓群】／中島町小牧に所在する小牧白山社社地の緩斜面上に所在する。五輪塔（27基）や宝篋印塔（10基）、板碑（17基）が散在する。平成14年～15年（2002～2003）発掘調査がなされ、20基の中世墓と1基の中世塚の遺構を確認している。昭和60年4月10日町指定文化財（現在市指定）。

【殿様道とのさまみち】（中島町奥吉田～笠師）／中島町奥吉田と笠師を結ぶ約1,200mの石敷きの山道。嘉永6年（1853）に13代加賀藩主前田斉泰の行列が、能登沿岸の海防視察のため通ったとされている。平成5年（1993）12月7日町指定文化財（現在市指定）。

【三引遺跡】（三引町）／縄文時代から江戸時代にわたる生活の跡が見つかっている。貝塚から縄文時代の漆塗りの櫛や丸木舟かいの櫂も出土している。

【三室トクサ遺跡】（三室町・鶴浦町）／LPガス国家備蓄基地建設を原因として発掘調査が行われ、県内最大の6,000年前の縄文時代の丸木舟や石鏃せきぞくが見つかった。

【製塩遺跡】／能登島の沿岸や灘浦海岸で多く見つかっている。古墳時代から平安時代にかけて製塩土器で濃縮した海水を煮炊きして塩を作っていた。

【能登国府】／能登国分寺の東側に置かれたと推定される国司せいちょうの政庁こくちやう。国庁を中心とし曹司そうし（実務施設）や国司館こくしかん（国司の居宅）・厨くりや（食事を作る施設）を含むであろう区域で、周辺に駅家うまや（七尾市内にあった越蘇駅は現在の江曾町と推定される）・国津・国分尼寺・総社・印鑰社・軍団・烽などの施設があったと思われる。養老2年（718）に越前国から能登国が分立した後、天平13年（741）に能登国が越中国に併合されるが、その間は、国司の任命が確認されていないので、国府も存在しなかった可能性が高い。天平勝宝9年（757）の再立国さいりっこくの後に国府が形成されていったと考えられるが、具体的な内容について

ては、その後の変遷を含めて、まだ明らかにされていない。

【七尾軍艦所】^{ななおぐんかんじょ}／ペリー来航以来、国内で海防の必要性が高まり、文久2年（1862）に加賀藩が洋式艦船を備えるため、出崎浜^{でさきはま}に設置した。勢揃いした軍艦は加賀前田家の家紋から梅鉢海軍と呼ばれた。

（神 社）

七尾市には、^{およ}凡そ170の神社がある。

【印鑰神社】^{いんにやくしんじや}（府中町）／印鑰は、領国を治める際の印鑑とそれを収納する箱の鍵を指す。はじめ七尾市街地の赤間田にあり、数度の移転を経て、江戸時代後期に現在地へ移転した。境内社に西宮神社（作事町）と不動尊堂があり、かつては金毘羅神社も所在した。所有する絵画に、絹本著色^{いんにやくみょうじ} 印鑰明神^{んすいじやくす} 垂迹^{さんぜんぶつ} 図（県指定文化財）、三千仏画像（市指定文化財）がある。5月に青柏祭のデカ山を奉納する。7月に納涼祭「互市祭」^{こいち}が行われる。

【大地主神社】^{おおとこぬしじんじや}（通称山王神社／山王町）^{さんのう}／毎年5月4日に青柏祭が執行されるが、その前後3日から5日にかけて市街で曳山行事（デカ山）が行われる。所有する市指定文化財に、工芸品の山王二十一社神楽鈴、^{かぐらすず} 歴史資料の扁額^{へんがく} 四面がある。境内社に登口神社（川原町）、鍛冶神社（鍛冶町）、菅原神社（塗師町）^{どうち}、道知神社（湊町一丁目）、金刀比羅神社（湊町二丁目）が所在する。

【能登生國玉比古神社】^{のといくくにたまひこじんじや}（通称気多本宮／所口町）^{けた}／天正17年（1589）付前田利家印判状写しにより、元は所口の丸山に鎮座していたが、丸山城の築城場所になったため、明神野と呼ばれていた現在地に移転したとされている。所蔵史料に建武3年（1336）源頼顕下知状や弘治3年（1557）畠山義綱下知状などを所蔵する。3月には羽咋の能登一宮の気多神社から神馬を迎える平国祭（通称おいで祭り）が執行される。4月には、市街地の西側に所在する氏子町会から6基のちょんこ山（山車）が奉納される。

【松尾天神社】^{まつおてんじんじや}（矢田町）／七尾城山の松尾（通称天神山）に所在し、『能登国式内等旧社記』には「矢田部天神社」と記される。江戸時代には府中町印鑰神社をはじめとし、都合39社の宮司を務めた。慶長11年（1606）の天満天神社頭造宮や慶長13年の天神拝殿造立棟札を有し、拝殿に飾られる慶長14年銘の三十六歌仙額36枚は市指定文化財である。

【総社】^{そうじや}（古府町）／大穴持命^{おおなむちのみこと}が御座された石^{こさ}をご神体と崇め社殿を建立した^{あが}

のが始まりと伝えられ、9世紀後半、^{えんゆう}円融天皇の頃に再建され、^{しきない}能登国中の式内社43座の神を勧請し能登国の総社となった。江戸時代の建造物である総社本殿と所蔵する寛永15年（1638）銘の三十六歌仙額36枚と同年の翁舞図額二枚はいずれも市指定文化財である。

※このほか、市指定文化財になっている建造物に、熊野神社本殿（大田町）・日吉神社本殿（大田町）・妙劔白石神社本殿（千野町）がある。

【^{くまかぶとあらかしひこじんじや}久麻加夫都阿良加志比古神社】（^{みやのまえ}中島町宮前）／日本で2番目に長い名前の神社。所有する文化財は多く、彫刻に木造久麻加夫都阿良加志比古神坐像（国指定文化財）、木造薬師如来坐像 一軀（^{いっく}県指定文化財）、木造狛犬 一對、木造随神像 二軀、（市指定文化財）、建造物に宝蔵 一棟（^{ほうぞう}奈良・東大寺の正倉院と同じように井桁状に校木を組んで造られている）、絵画に絵馬 一面、工芸品に久麻加夫都阿良加志比古神社湯立釜 一口、書籍に弘安六年神殿棟札 一枚、歴史資料に^{さんかく}算額 一面、天然記念物に大杉（以上、市指定文化財）がある。

【^{ふじつひこじんじや}藤津比古神社】（中島町藤瀬）／江戸時代中期の建造物である藤津比古神社本殿 附 元禄十五歳棟札は、昭和42年6月15日国指定文化財指定。所有する文化財に工芸品の^{まきえくら}蒔絵鞍 一脊、書籍の^{しょうわ}正和三年（1314）熊野権現建立棟札、歴史資料の^{いげた あげき}榎 一個（以上、市指定文化財）がある。

【^{ひとまろしや}人麻呂社】（中島町瀬嵐）／『万葉集』の歌人で三十六歌仙の一人、また歌聖とも称される柿本人麻呂を祀る。現在は、三島神社に^{かせい}合祀されているが、旧社地には^{ほくら しょうとく}祠や正徳4年（1714）に休養湯治のため和倉に来た加賀藩年寄役・本多政敏が寄進した^{いしどうろう}石燈籠などが残る。

【^{はくさんしや}白山社】（中島町小牧）／眼病予防や豊作・無病息災などを願い中世から続く湯立て神事が、毎年4月18日に行われている。また、境内には小牧白山社中世墓群や小牧のスタジイ（以上、市指定文化財）がある。

【^{い や ひ め じんじや}伊夜比咩神社】（能登島向田町）／能登島の総社。伊夜比咩神社棟札32枚（県指定文化財）は、中世からの変遷をたどってきた神社の歴史を知ることができる。市指定文化財には、彫刻の木造男神坐像 四軀、古文書の伊夜比咩神社文書がある。

《熊甲と藤津比古の二人の神様》

^{すじん}崇神天皇の頃、熊甲と藤津比古の二人の神様が、海を渡り、最初にたどり着

いたのが机島。その後上陸し、弓を引いて矢の落ちたところに宮を立てることにした。熊甲の神は「谷内の加茂原」、藤津比古の神は「藤瀬」に矢が落ちたという。

（寺 院）

市内には、現在凡そ120の寺院がある。七尾市街地周辺における寺院配置は、西側に浄土真宗以外の寺院を集めた「山の寺寺院群」と東側に浄土真宗寺院を集めた御坊町（現在の郡町附近）が形成された。現在の市街地南側に並ぶ真宗寺院の配置は、江戸時代中・後期の寺院移動で形成されたもの。

やま てらじいんぐん [山の寺寺院群]（小島町）

真言宗・曹洞宗・浄土宗・日蓮宗・法華宗で形成される寺院群。江戸時代には多い時で29ヶ寺あったが、現在は16ヶ寺所在する。一番多い宗派は日蓮宗であり、日蓮宗寺院がまとまって所在する丘陵部は「法華谷」と呼ばれている。

【長 齢 寺】（曹洞宗）／能登国主として七尾へ入った前田利家が能登で建てた唯一の寺で、父・利春（休岳院）と母・長齢夫人の菩提寺。越前・宝円寺の僧・大透圭徐を開基とする。天正9年（1581）創建と伝え、利家の孝心の厚さが偲ばれる。元は「宝円寺」と言い、小丸山城近くに建てられたが、文禄3年（1594）に現在地に移され「休岳山長齢寺」と改称した。境内には休岳院と長齢夫人の墓所、参道には、県内唯一の利家と長男・利長の石廟（石で造った先祖を祀る祠）に祀られた宝篋印塔、兄・安勝とその子・利好の墓所がある。

前田家ゆかりの寺院として、絵画では、絹本著色 前田利春画像 一幅（国指定 重要文化財）、絹本著色 長齢夫人画像 一幅（県指定文化財）、絹本著色 前田安勝画像 一幅（市指定文化財）、絹本著色 前田利政画像 一幅（市指定文化財）、紙本著色 前田利家画像 一幅（重要美術品）など、前田氏関係の文化財を多く所有する。

【徳翁寺】（曹洞宗）／山号の天満山は、七尾城の麓に所在する松尾天神別当寺であったという由緒から付けられている。天正13年（1585）6月付の前田利家寄進状を有する。宛先は「山ノ寺」となっている。寺子屋の師匠であった斎藤他石や「所口の賢人」と呼ばれた岩城穆齋の筆塚が所在する。また、元

禄3年(1690)版の俳句集「^{けやき}櫟炭」を手掛けた七尾の俳人^{さいりゅうけんおおのちょうきゅう}細流軒大野長久の墓もある。山門の鐘楼門をくぐると境内のツツジと七尾石仏三十三観音巡りの一番如意輪観音がやさしく出迎えてくれる。

【^{りゅうもんじ}龍門寺】(曹洞宗) / 能登畠山4代・6代義元が鳳至郡三井村(現・輪島市内)に自らの菩提寺として建てた^{こうとく}興徳寺が、能登畠山氏滅亡後に^{こうはい}荒廃したため、同じ曹洞宗だった龍門寺が、^{けさ}文書や袈裟を譲り受けた。

所有する文化財は、「^{だるま}絵画」の紙本墨画 達磨図 一幅(長谷川等伯筆)、「^{しほんぼくしょ}典籍」の紙本墨書 ^{しょうぼうげんぞう}正法眼蔵、^{でんこうろく}伝光録、^{ぶつそこそく}正法眼蔵仏祖悟則 附 納入箱 八十二冊・一合(県指定文化財)。「歴史資料」の龍門寺袈裟・法衣袋など四点、「古文書」では龍門寺文書八通、「天然記念物」のラカンマキ(市指定文化財)がある。寺は青柏祭に食される「ながまし」の製造元祖とされる酒見屋助右衛門が発願寄進して、大櫟一本で建てたという逸話が残されている。

【^{えいげんじ}恵眼寺】(曹洞宗) / 加賀藩3代前田利常の母寿福院(利家の側室千世)が開基とされ、^{ちよほ}千代保(千世)や横山武蔵守の書状を有する。また、絵馬の寺としても知られ、大型の雨乞い絵馬をはじめとして多くの奉納絵馬が所在する。厨子に安置される木造の延命地藏尊は33年に一度ご開帳され、線路に切られた参道入り口には文政元年(1818)銘の石造延命地藏がお堂に安置されている。

【^{ほうどうじ}宝幢寺】(浄土宗) / もとは石動山にあった真言宗の福昌院であったとされる。本尊の阿弥陀如来立像と両脇侍像は鎌倉時代の作と推定されている。また、元禄5年(1692)に再建された本堂の天井や柱、壁の彩色などは加賀の心岩和尚の作と伝えられる。境内には「^{あはし}歯治し地藏」や「^{だまごころ}団子念仏碑」などの石造物が多く所在する。また、近世七尾の医者であった横川長州や安田元吉の菩提寺でもある。

【^{さいねんじ}西念寺】(浄土宗) / 所有する文化財に、工芸品の刺繍 阿弥陀三尊像 一幅(国指定 重要文化財)、^{さんぞんらいごう}絵画の絹本著色 三尊来迎図一幅(県指定文化財)、釈迦涅槃図 一幅(市指定文化財)がある。また、山門の脇には閻魔堂があり、地獄絵図の額と享保期に作成された閻魔像などの十王像が並んでいる。

【^{じょうつうじ}常通寺】(浄土宗) / 本尊の阿弥陀如来坐像は平安時代前期の作とされる。参道脇には文政7年(1824)の徳本名号碑、山門脇には六地藏が所在する。七尾の地蔵巡拝講御詠歌の9番札所となっている。かつては本堂前の丘陵地に

金毘羅社が祀られていた。

【妙観院】(真言宗) / 大正時代末までは海に迫った景勝地で、紀行文などにもその様子が記されている。8月9日・10日両晩の千日参りには観音堂で護摩祈願が行われる。また、七不思議があるなど伝説の多い寺院である。

本尊の木造阿弥陀如来坐像 一軀(鎌倉時代 / 県指定文化財)のほか、木造聖しょう観音立像かんのんりゅうそう 一軀、木造二天立像 二軀、木造地藏菩薩立像 一軀、(以上、市指定文化財)を所有する。観音堂脇に建つ鐘楼堂の釣鐘は元禄8年(1659)に製作され、竜頭部分の頭部が虎で尾部に竹を組み合わせてあり、池の間に飛天を配するなど朝鮮鐘を模しているとされている。また、釣鐘寄進の経緯や突き座を四方に配するなど風変わりな梵鐘である。

【成蓮寺】(日蓮宗) / 七尾府中であつた廻船を営む番匠屋弥右衛門家ゆかりの寺である。慶長4年(1599)に長谷川等誉が書き写した白描仏涅槃図一幅(市指定文化財)が伝存する。厨子に安置されている妙見菩薩像は、嘉永5年(1852)に今出川菊蔵という力士が江戸大相撲の阿武松緑之助方へ相撲修行に行った時、枕元に妙見菩薩が三夜立ち、「我を信仰したならば所願成就する」とお告げに基づいて厨子に安置したという縁起札が奉納されている。

【本延寺】(日蓮宗) / 長谷川等伯の実家・奥村家の菩提寺。2月に「等伯忌法要」が行われる。彫刻に長谷川等伯が永禄7年(1564)に彩色寄進した木造日蓮坐像 一軀(市指定文化財)、慶長14年(1609)に長谷川等誉筆の紙本著色 涅槃図(市指定文化財)を所有する。平成26年(2014)2月に、毎年2月24日を「等伯忌」とする記念日登録がなされた。本堂の天井画は、長谷川家の系譜を持つ日本画家仲春洋なかしゅんよう氏の作である。

【実相寺】(日蓮宗) / 永禄9年(1566)に創建される。同年銘の日蓮聖人きしもしん像(市指定文化財)は、長谷川等伯27歳の時の作品である。鬼子母神と加藤清正公の2尊を祀る。参道入り口に「清正公」の石碑が建つ。

【印勝寺】(法華宗) / 山号は宝泉山。寺は、京都本禅寺日導上人が天文17年(1548)に七尾に逗留とまりゆうした際、印勝という僧が寺号を受けて建立したとされる。鐘楼門の梵鐘には寛政12年(1800)の銘が刻まれている。

【本行寺】(法華宗) / 能登畠山氏まるやまばいせつの家臣で茶人の円山梅雪が開いたと言われ、高山右近の修道所跡やゼウスの塔があるキリシタンゆかりの寺とされている。

“柳の寺”または“紅葉寺”とも称される。毎年10月には安置する三面大黒

天にちなむ「ぼぶら（かぼちゃ）講」が開催され、多数の信者たちが参詣する。

【長壽寺】^{ちようじゆ(う)じ}（日蓮宗）／等伯が養子入りした長谷川家の菩提寺。「無分（文）」筆の紙本著色 涅槃図一幅（県指定文化財）は長谷川派の手本となっている。また、加賀藩御用釜師であった初代宮崎寒雉^{かんち}が製作した貞享元年（1684）の梵鐘^{ぼんしやう} 一口（市指定文化財）を所有する。平成25年（2013）3月に、安政2年（1855）銘が刻まれる長谷川十兵衛家（江戸時代後期ごろに金沢へ移住か）の供養碑が発見された。

【妙園寺】^{みやうこくじ}（日蓮宗）／開運の寺として知られる。室町期の名入仏涅槃図を所蔵する。また、奉納されている船絵馬や難船絵馬、天保4年（1833）の大雨止祈祷札や明治期の大型の雨乞い絵馬2枚など、古くから信仰の篤い寺である。

【長興寺】^{ちようこうじ}（日蓮宗）／山門脇に七面大明神の碑が建つ。山門脇には常盤町久田屋の墓所が所在し、奥行きのある墓所には大型の燈籠などが並ぶ。大型の雨乞い絵馬や青柏祭の曳山絵馬など多くの絵馬が奉納されている。

[市内の主な寺院]

【靈泉寺】^{れいせんじ}（曹洞宗）／郡町に所在し、遊佐氏の屋敷跡とも言われる。所蔵する紙本淡彩^{たんさい} 十六羅漢図 八幅（長谷川等伯筆）は、県指定文化財である。また、平安時代後期の聖観音立像一軀が所在し、寺院裏の五輪塔は前田利政の墓と伝えられる。

【海門寺】^{かいもんじ}（曹洞宗）／大田町に所在し、七尾南湾に浮かぶ雌島・雄島を門に見立てて寺号にしたと伝える。能登畠山氏や加賀前田家の庇護を受けた。33年に一度、御開帳される木造千手観音坐像^{いっく} 一軀は体内銘から保元3年（1158）の制作であることが判明し、平成24年（2012）9月6日に国指定重要文化財となった。初代宮崎寒雉^{かんち}が貞享元年（1684）に製作した梵鐘 一口と天正4年（1576）銘の東岳受旭無縫塔^{とうがくじゆきよくむほうとう} 一基は市指定文化財である。また、熊野神社所有の寛文四年奉納絵馬二十七面（市指定文化財）を保管している。

【西光寺】^{さいこうじ}（浄土宗）／小島町の小丸山城址公園下に位置し、初代宮崎寒雉が貞享元年（1684）に製作した梵鐘 一口は市指定文化財である。享保17年（1732）銘の祐天名号碑^{ゆうてんみやうこうひ}や文政6年（1823）銘の徳本名号碑^{とくほん}が所在する。

【長福寺】^{ちやうふくじ}（真宗大谷派）／今町に所在する。明応9年（1500）の創建と伝

えられ、近江門徒の一人である舟木教念ふなききょうねんの系譜をひくとされている。江戸時代には鹿島郡東方触頭を務めた。教恩房宛遊佐秀盛書状や親鸞影像などの長福寺歴史資料 13点は、市指定文化財である。

【法広寺】ほうこうじ（真宗大谷派）／鶴浦町に所在し、同寺が管理する椿林寺常緑広葉樹林ちんりんじじょうりよくこうようじゅりんは、市指定天然記念物になっている。また、墓地には室町時代とされる殿山無縫塔むほうとうが所在する。現在の境内地墓所は、近代医療に尽力した湯本求真の生家が所在した。

【東嶺寺】とうれいじ（曹洞宗）／田鶴浜町に所在する長家の菩提寺。慶安3年（1650）に長連頼が父・連龍の法要を行うため本堂を改築した。建造物の東嶺寺本堂一棟と東嶺寺山門一棟は、市指定文化財となっている。寺に隣接した東嶺寺内長家墓所（市指定）には、連龍をはじめ長家歴代の当主の墓碑が並び建つ。

彫刻の観音立像一軀、絵画の蛭山紹瑾禅師自賛画像一幅、絹本著色涅槃図一幅、工芸品の欄間一面、本堂扉四枚一式、高卓一脚、香炉一口、花瓶二基一对、銭九曜文鏡一面、梵鐘一口と、多くの市指定文化財を所有する。

【悦叟寺】えっそうじ（曹洞宗）／田鶴浜町に所在し、長連龍の兄・綱連（悦叟良喜居士）の菩提寺。所有する市指定文化財に、紙本淡彩十六羅漢図二幅、絹本著色長好連像一幅がある。

【怡岩院】いがんいん（真言宗）／三引町に所在し、赤蔵山の麓にある。天正年間に焼失し、長連龍によって再興された父・続連（怡岩良悦居士）の菩提寺。赤蔵山上一本宮寺などに関する多くの棟札を有する。

【栄春院】えいしゅんいん（真言宗）／三引町に所在し、赤蔵山の麓にある。長連龍によって再興された母・花溪栄春大姉の菩提寺。平成18年（2006）の赤蔵権現御開帳の時に発見された「栄春院文書」517点は江戸時代の赤蔵山の様子を知る史料として貴重である。

【亀源寺】きげんじ（曹洞宗）／三引町に所在し、長連龍の家臣で戦死した95名の菩提を弔う寺である。参道の入口横のお堂に安置してあるキリシタン灯籠竿石は市指定文化財。

【宗貞寺】そうていじ（真宗大谷派）／高田町に所在し、所有する梵鐘一口（市指定文化財）は、戦国時代後期の永禄2年（1559）の銘が入る。

【定林寺】じょうりんじ（臨濟宗）／中島町中島に所在し、鎌倉時代末期の嘉暦元年（1326）に、熊来荘地頭・熊来左近将監が京都・東福寺の前住持・月浦宗暹を開基とし

て建立。南北朝時代末まで熊来氏の氏寺であった。彫刻の木造釈迦如来坐像 一
軀、木造文殊菩薩坐像 一軀、木造普賢菩薩坐像 一軀、木造月浦宗暹坐像 一
軀、絵画の熊木左近将監公肖像 一幅（市指定文化財）を所有する。

【徳照寺】（浄土真宗本願寺派）／中島町河崎に所在し、工芸品の的場孫三寄
進七条袈裟 一点と喚鐘 一口は市指定文化財である。

【本浄寺】（浄土真宗東本願寺派単立）／中島町上町に所在する。所蔵する本
浄寺文書は、江戸時代の寺院や中島村の様子を伝える貴重な資料である。中
でも慶長5年（1600）の「人質詰申日記」は市指定文化財となっている。

【大覚寺】（曹洞宗）／中島町笠師に所在し、能登半島地震で半壊した本堂を
再建。寺に隣接する北國八十八ヶ所霊場は、四国八十八ヶ所霊場の景観を模し
て、それと同じ方向に石仏が配置され、拝石の下には、住職が四国を参拝した
時に持ち帰った本尊下の土が埋められ、市指定記念物となっている。

【専正寺】（浄土真宗本願寺派）／能登島祖母ヶ浦町に所在する。彫刻の木造
女神坐像 一軀、木造薬師如来立像 一軀、工芸品の銅造大日如来懸仏 一面（以
上、市指定文化財）を所有する。

〔お 堂〕

【閨観音堂】／能登島閨町に所在し、嶋島入江に面した森林の中にある。観音
堂は、その名のとおり聖観音菩薩を安置した祠堂で、能登では鳳珠郡穴水町の
明千寺の鎌倉屋敷に次いで五輪塔と板碑がまとまって所在している。彫刻の木
造聖観音坐像 一軀、歴史資料の閨観音堂造立棟札 二枚、史跡の閨観音堂石塔
群と、市指定文化財を多く所有する。

【鹿渡島観音堂】／鶴浦町鹿渡島に所在し、崎山半島の先端に位置する。島内
の観音島海浜植物群落は市指定記念物となっている。また、能登国三十三巡礼
観音四番札所となっており、本尊は千手観音立像で、脇には阿弥陀如来立像と
菩薩型坐像を安置する。堂内正面の「鶴夢拝書」と刻まれた「鹿渡嶋観音」額
（市指定文化財）は、加賀藩八家の本多政敏の揮毫で、正徳5年（1715）に
奉納されたものである。

【谷内観音堂】／中島町谷内に所在し、江戸時代に制作された木造千手観音坐
像ほか多くの仏像が安置されている。谷内観音堂安置仏像群として市指定文化
財となっている。

《文化財の数え方》

指定文化財の名称を見ると、普段はあまり見ない言葉が使われていることがある。例えば、“著色”の読みは「ちやくしょく」で、“着色”と同じ意味である。また、物を数える言葉を数詞というが、文化財では聞き慣れない数詞を使うことも多い。読みにくいものに、一幅／いっぷく、一脊（背）／いっせ、一軀／いっく、一旒（流）／いちりゅう がある。尚、一棟はいっとう・ひとむね、一口はいっこう・いっく、どちらの読み方でも良い。

（ 霊 場 ）

[能登国三十三観音札所]

第1番	明泉寺（鳳珠郡穴水町諸橋）	第18番	天平寺（鹿島郡中能登町金丸）
第2番	上田観音堂（鳳珠郡穴水町宇加川）	第19番	長楽寺（鹿島郡中能登町能登部下）
第3番	嶽 ^{だけ} の宮 ^{みや} （能登島鰻目町）	第20番	山田寺（鹿島郡中能登町良川）
第4番	・椿林寺（神道寺／鵜浦町） ・鹿渡島観音堂（鵜浦町）	第21番	高田観音堂（橋爪寺／高田町）
第5番	海門寺（大田町）	第22番	牛ヶ鼻観音（浦ヶ嶽／白浜町）
第6番	清水観音堂（清水寺／万行町）	第23番	白山神社（妙法寺／中島町谷内）
第7番	妙観院（小島町）	第24番	虫ヶ峰（白山神社／中島町町屋）
第8番	江曾観音堂（練ヶ谷内観音／江曾町）	第25番	龍護寺（羽咋郡志賀町富来酒見）
第9番	石動山天平寺（鹿島郡中能登町）	第26番	高爪神社（羽咋郡志賀町富来大福寺）
第10番	小田中観音堂（初瀬寺／鹿島郡中能登町小田中）	第27番	宝泉寺観音堂（輪島市門前町道下）
第11番	正霊寺（常楽寺／鹿島郡中能登町高畠）	第28番	高尾山立持寺（輪島市門前町鬼屋）
第12番	四柳観音堂（四柳寺／羽咋市四柳町）	第29番	伊須流岐神社（長楽寺／輪島市門前町和田）
第13番	円通院（羽咋市酒井町）	第30番	鳳来山観音堂（輪島市鳳至町）

第14番	住吉神社（専福寺／羽咋市若部町）	第31番	粉川寺（輪島市横地町）
第15番	観音寺（松岡寺／羽咋市的場町）	第32番	岩倉寺（輪島市町野町西時国）
第16番	正覚院（一宮南大門／羽咋市寺家町）	第33番	翠雲寺（珠洲市三崎町寺家）
第17番	光泉寺（光全寺／羽咋市柳田町）		

[能登十二薬師]

第1番	湯の薬師 少比古那神社（和倉町）	第7番	米山薬師 蔵福院（鳳珠郡能登町石井）
第2番	熊甲薬師 久麻加夫都阿良加志比古神社（中島町宮前）	第8番	浜田薬師 通敬寺（輪島市大川町）
第3番	高爪薬師 高爪神社（羽咋郡志賀町富来大福寺）	第9番	高洲薬師 高清寺（輪島市大野町）
第4番	甲山薬師 加夫刀比古神社（鳳珠郡穴水町甲）	第10番	九里薬師 薬師寺（鳳珠郡能登町布浦）
第5番	奥津薬師 薬師堂（鳳珠郡穴水町中居）	第11番	白滝薬師 薬師寺（珠洲市若山町）
第6番	桜木薬師 菅原神社（鳳珠郡能登町鶴川）	第12番	宗末薬師 薬師堂（珠洲市若山町）

[七尾石仏地藏]

第1番	小島 妙観院	第9番	山王 常通寺	第17番	郡町 霊泉寺
第2番	小島 愛宕山	第10番	山寺 西念寺	第18番	山王 泉龍寺
第3番	小島 恵眼寺	第11番	小島 西光寺	第19番	矢田 すご森
第4番	山寺 長齡寺	第12番	藤橋 ふじはし	第20番	矢田 かわら
第5番	山寺 徳翁寺	第13番	ふじの 追分	第21案	矢田 明星館
第6番	山寺 龍門寺	第14番	川原町 最勝寺	第22番	万行 椿森

第7番	山寺 徳林寺	第15番	馬出 宝塔寺	第23番	佐味 宮森
第8番	山寺 宝幢寺	第16番	府中 印鑰寺	第24番	大田 海門寺

[七尾石仏三十三観音]

第1番	山寺 徳翁寺 (如意輪観音)	第18番	山寺 西念寺 (如意輪観音)
第2番	小島 西光寺 (十一面観音)	第19番	山寺 常通寺 (千手観音)
第3番	藤橋 辻堂 (十一面千手観音)	第20番	佐味 八幡社前 (十一面千手観音)
第4番	山寺 長齡寺 (千手千眼観音)	第21案	山寺 妙罔寺 (聖観音)
第5番	大田 海門寺 (十一面観音)	第22番	山寺 長興寺 (千手観音)
第6番	馬出 宝塔寺 (千手千眼観音)	第23番	小島 高岡山 (十一面観音)
第7番	小島 妙観院 (如意輪観音)	第24番	佐味 今田前 (十一面観音)
第8番	川原 最勝寺 (聖観音)	第25番	山寺 長寿寺 (十一面観音)
第9番	山王 泉龍寺 (不空羂索観音)	第26番	山寺 印勝寺 (聖観音)
第10番	郡町 壺泉寺 (千手観音)	第27番	山寺 実相寺 (如意輪観音)
第11番	山寺 宝幢寺 (准胝観音)	第28番	山寺 常通寺 (聖観音)
第12番	三島 大仏寺 (千手観音)	第29番	大田 藤平谷内 (馬頭観音)
第13番	矢田 すご森 (如意輪観音)	第30番	山寺 龍門寺 (千手観音)
第14番	千野 正福寺 (如意輪観音)	第31番	小島 田治前 (千手観音)
第15番	古屋敷 小瀧山 (十一面観音)	第32番	藤橋 無常堂 (千手千眼観音)
第16番	神明町 神明通 (千手観音)	第33番	小島 三原前 (千手観音)
第17番	小島 恵眼寺 (十一面観音)		

(人物)

のとおみまむたつ 【能登臣馬身龍】 / 『日本書紀』に、さいめい 齊明天皇の6年(660)に越国守・阿部あべの比羅夫ひらふが船団を率いて東北遠征を行った時、わたりのしま 渡嶋みしはせ(しゆくしん)で肅慎と戦い戦死した記述がある。

おおとものやかもち
[大伴家持]

奈良時代の歌人で、天平18年(746)6月21日越中国司として赴任し、5年間在任した。『万葉集』の選者と言われ、最も多くの479首が載せられて

いる。その中には、現在の七尾市域で詠んだ歌も多く、歌碑が各場所で建立されている。

『万葉集』から、以下の歌を紹介する。

天平20年(748)春、能登国くすいこの公出拳督くすいこのため加嶋津から舟で熊来(現・中島町中島付近)に向かった時に詠んだ歌。

- 鳥とぶさ総い立くて 船ふ木な伐きるといふ 能登しまやまの島山 今日見れば 木立こたちしげ繁しも
幾代いくよかむ神かみびぞ〈巻17 4026 大伴家持が詠んだ歌〉

※鳥総は、梢こすえや枝葉えだはの茂しげった先

- 香島より 熊来をさして 漕ぐ舟の かしとる間なく 都し思ほゆ〈巻17 4027 大伴家持が詠んだ歌〉
- はしたての 熊来しらぎおののやらに 新羅斧 おとしいれわし かけてかけて
な泣かしそね 浮き出づるやと見むわし ※「わし」は、掛け声
- はしたての 熊来酒やつこ屋に まぬらる奴わし さすいたて めて来なまし
を まぬらる奴わし
- 香島嶺かしまねの 机しただみの島の 小螺を い拾い持ち来て 石以ち つつき破り
早川たてまつに 洗あいすすぎ 塩辛としにこごと揉たてまつみ 高坏たかづきに盛り 机しただみに立てて 母
に 奉まきのりつや めづこの刀のとのくにうたさんしゅ自 父ちちに 献たまりつや みめこの刀自
〈以上、巻16「能登国歌三首」 作者不詳〉

【源順】みなもとのしたごう／平安時代中期の政治家・文学者。天元2年(979)に能登国司に任ぜられ、青柏祭を能登の国祭りと定めたと伝える。三十六歌仙の一人で、国内初の分類体辞典「和名類聚抄」わみょうるいじゅうしやうを著した。政治的には不遇で、都に戻らず能登国府のある七尾の地で73歳にて没。

【能登畠山氏】のとはたけやまし

室町幕府の将軍足利氏の支族でもあった管領・畠山基国かんれいが、明德2年(1391)に初めて任じられてから代々能登守護になった畠山氏の系統を指す。基国は能登・越中・河内・紀伊国の守護を兼務していた。応永15年(1408)に基国の子・満慶みつりが、将軍足利義満よしみつに疎んじられた兄・満家みついえに父から受け継いだ前記4国の守護職を返し、(あらためて兄から能登国を譲り受け、ここに能登畠山氏よしただが誕生した。初代満慶から2代義忠までは在京し、実質上の現地支配は、守護

代の遊佐氏があたった。)3代義統よしむねが、応仁の乱の後に初めて能登国おもむに赴いた。この義統の次男(三男とも)・義智が文明6年(1474)に松波城(現・鳳珠郡能登町)を構え、松波畠山氏を創始した。

はたけやまよしひさ
[畠山義総]

第5代慶致の嫡男で、畠山家第7代の守護大名。能登畠山氏の全盛期を築く。義総よしひさは、古典文学・和歌・能・茶道・香たしなを嗜み、東大寺正倉院に収められていた織田信長や徳川家康も欲しがった天下の香木「蘭奢待」を所有していたという。

文芸活発の義総政権の下には京都から公家など文化人も来訪している。中には、和歌の名門・冷泉家ためひろ ためかす ぶ しの為広・為和父子を七尾城に招かれており、和歌や連歌の会が、度々催されていた。

また、義総は外交にも力を入れ、近江守護の六角氏と婚姻関係を結び、大永年間(1521~28)に京都の臨濟宗大本山・大徳寺に仏智大通禅師を開祖として塔頭たっちゅう こうりんいん・興臨院を建立し代々能登畠山氏の菩提寺とするなど、京都との関係も強化した。

はせがわとうはく
[長谷川等伯]

主に桃山時代に活躍した絵師で“画聖”と讃えられる。天文8年(1539)に畠山義総の家臣・奥村宗道の子として生まれ、幼い頃、染物屋を営んでいた長谷川宗清むねきよ どうじょう(道浄)の養子となった。養祖父とされる無分(文)と養父の宗清から絵画の手ほどきを受け、信春と名乗り、実家・養家ともに信仰の篤かった日蓮宗を中心とした仏画を能登周辺で多く描く。

等伯が能登で描いた作品の中で最も古いとされるのが、妙成寺にちじょうしょうにんの「日乗上人画像」(県指定)である。次いで、氷見市蓮乗寺れんじょうじの「宝塔絵曼荼羅」は父宗清との合作で描かれている。これ以降は、珠洲市正院本住寺の「日蓮聖人像(袋型印)」や善女龍王ぜんによりゅうおう図(七尾市蔵/県指定)も能登時代の作品とみられている。このほか、七尾市靈泉寺れいせんじの「十六羅漢じゅうろくらかんす図」(県指定)や新潟県三条市本成寺ほんじょうじの「鬼子母神十羅刹女像きしもじんじゅうらせつによぞう」などは30歳前後に描かれたと推定されている。また、この時期には数少ない紙本墨画淡彩の「山水図」(七尾市蔵/市指定)もこの頃に描かれたとされる。以下、能登時代に描かれたとされる作品を挙げてみた。

• 永禄7年 七尾本延寺ほんねんじ「日蓮聖人坐像（長谷川又四郎信春）」（市指定）を彩色。

羽咋正覚院しょうがくいん「十二天像（信春）」（県指定）

高岡大法寺たいほうじ「日蓮聖人像 長谷川又四郎と宗清（道浄）」

「鬼子母神十羅刹女像 長谷川信春と宗清（道浄）」

「釈迦多宝如来像 長谷川信春と宗清（道浄）」

個人蔵べんざいてんじゅうごとうじぞう「弁財天十五童子像」

• 永禄8年 七尾実相寺じっそうじ「日蓮聖人像」（市指定）

• 永禄9年 高岡大法寺さんじゅうばんじんず「三十番神図（又四郎）」

※下線作品国指定

• 永禄11年 羽咋妙成寺みょうじょうじ「仏涅槃図」（県指定）

長男久蔵が誕生する。

• 元亀2年 富山妙傳寺みょうでんじ「鬼子母神十羅刹女像」

• 元亀3年 京都本法寺にちぎょう「日堯上人像」を描く。この頃に京都へ上洛か？

等伯が33歳の時、宗清と養母・妙相が相次いで亡くなり、それを機に京都へ赴き、奥村家の菩提寺である本延寺と本寺、末寺の關係を持つ本法寺ほんぼうに身を寄せたとされる。第10世住職・日通上人にっつうしょうにんが、等伯が語ったことを『等伯画説』に綴るなど、本法寺とはその後も深い關係があった。

京都に登ってからは、愛宕権現図あたごこんげん（七尾市蔵／県指定）・達磨図（龍門寺蔵／県指定）などの仏画をはじめ、陳希夷睡図ちんきいすい（七尾市蔵／県指定）・松林図屏風（東京国立博物館蔵／国宝）・竹林猿猴図屏風ちくりんえんこう（京都 相国寺蔵／重文）などの水墨画、波濤図はとう（京都 禅林寺蔵／重文）・山水図襖さんすい（32面／京都 圓徳院蔵／重文）などの水墨障壁画、楓図壁貼付かえで す かへはりつけ（京都 智積院蔵／国宝）・松に秋草図屏風ちしゃく（京都 智積院蔵／国宝）などの華やかな金碧障壁画を手掛け、長谷川派を隆盛に導いた。また、「雪舟より五代 長谷川法眼等伯筆ほつげん」と署名するなど室町時代の水墨画家・雪舟への憧憬は深かった。

尚、智積院の楓図壁貼付は、陶版画が七尾市役所正面ロビーに掲げられている。

長男の久蔵きゅうそうも優れた画家で、桜図壁貼付（智積院蔵／国宝）を描いたが、文禄2年（1593）に26歳の若さで亡くなった。等伯が慶長4年（1599）に描いた京都本法寺の仏涅槃図は縦が約8メートルもあり、東福寺と大徳寺のものと共に三大涅槃図といわれている。長男久蔵の死を悼む強い気持ちで、この

作品を完成させたとも言われている。

等伯は慶長15年(1610)に徳川家康から招かれ、江戸に向かう途中で発病し、到着した2日目の2月24日に72歳で没した。

【等伯・信春同人説】／以前、等伯と信春は別人と思われていた。元龜3年(1572)に描かれた京都本法寺の^{にちぎょう}日堯上人像の署名によって同一人物であることが判明し、昭和13年(1938)に土居次義氏により『長谷川等伯信春同人説』が発表された。平成22年(2010)没後400年記念として「長谷川等伯展」が開催され、観覧者が東京国立博物館で29万人、京都国立博物館で24万人に達した。七尾駅前のミナ、クル前に七尾出身の彫刻家・田中太郎が手掛けた若い頃の長谷川等伯像「青雲」(同様の像が京都・本法寺にもある)が設置されている。

【等伯と前田家】／同時代に生きた前田利家と長谷川等伯は能登や京都でその接点はあったのだろうか？ その謎を解くカギは京都大徳寺塔頭の^{たっちゅう ほうしゅんいん}芳春院資料から少しずつ紐解かれてきた。芳春院が所蔵する貞享3年(1686)の「紫野芳春院御建立以来縁起記録書上」によれば、「客殿之絵之儀有之候、其時ノ絵者長谷川等伯二被仰付候、其以後微妙院様探幽二被仰付、只今ハ客殿并書院皆々探幽一筆ニテ御座候、」とあり、客殿に等伯の襖絵があったことが記されている。また、『御夜話集』(石川県立図書館協会 昭和9年刊)「一、瑞龍公御近習衆に、我々天下にこはき物三つ有。何も思案仕て見候へと被仰。いづれも何にて御座^{しゅんおくそうえん}候哉と申上げれば、一には上様(秀吉)の御前へ出ると、二には国師(春屋宗圓)の前へでると、三には利休の前にて茶を立てると、是三色也。其中にも、利休之前にて茶をたつるが第一にこはきと被仰しと云々。(後略)」とあり、秀吉や春屋宗圓、千利休を通して、等伯が前田利長とも親交があったと思われる。

^{ちょうつらたつ}
[長連龍]

連龍は初め出家して孝恩寺と称した。天正5年(1577)上杉謙信によって七尾城が攻められた際、織田信長に援軍を求めるため、兄・綱連によって安土城に^{つか}遣わされた。七尾城が落城して一族が滅亡したことを知り、遊佐氏・温井氏・三宅氏などに対して報復戦を展開する。天正8年(1580)9月、織田信長から鹿島半郡(二宮川西側流域)を与えられ、本拠地を田鶴浜に置いた。その後、前田利家に従い転戦。加賀八家の一つ長家の祖となった。長家に伝わる

古文書史料は、穴水町歴史民俗資料館に保管されている。

まえだとしいえ
[前田利家]

尾張国荒子（現・愛知県西部、名古屋市）に利春（利昌）の四男として誕生。
天正3年（1575）に佐々成政・不破光治とともに府中三人衆の一人として越前国府中城主となる。天正9年（1581）に織田信長から菅谷長頼・福富定次と共に能登管理を命じられ、8月に能登一国を与えられた。当初羽咋市の飯山に居を構えるが、現宝達志水町の菅原に移り、七尾湾沿岸部の七尾所口村に小丸山城を築く。天正11年に金沢に移り、尾山に金沢城を築く。慶長4年（1599）に大坂にて63歳で没する。

まえだとしまさ
[前田利政]

天正6年（1578）利家の次男として尾張国荒子で誕生。文禄2年（1594）9月、豊臣秀吉から能登国21万石の領有を許され、「能登侍従」と称した。関ヶ原の戦いで、2度目の出陣を拒んだため領国没収となり、京都に隠棲する。後に子の直之が叔父の3代加賀藩主利常に仕え、元禄3年（1690）に制定した年寄役を世襲する加賀八家の一家となり、前田土佐守家の祖となった。第5代当主・直躬は冷泉家に和歌を習い、書道・茶道を嗜む文化人で、加賀騒動にも深く関係した。金沢市の「前田土佐守家資料館」で所蔵資料が公開されている。

【北村平内】／寛文4年（1664）生まれ。三階村（現高階地区）の十村（村々をまとめる有力な百姓）。田んぼの水不足を解消するため、江戸時代の享保10年（1725）に、村人と「漆沢の池」をつくった。この大きな溜池は3年9ヶ月かけて完成し、米の取れ高が600石から800石に増えたという（増収の200石は、500俵（米30トン）に相当する）。元文5年（1740）没。

【伊能忠敬】／江戸時代の測量家。日本中を踏査し、初の実測による日本地図である「大日本沿海輿地全図」を作った。七尾には、享和3年（1803）の第4次測量で東海・北陸を調査した時に訪れた。尚、その測量経路は所口→田鶴浜→中島→能登島→灘浦海岸である。

【寺島蔵人】／加賀藩士で、藩政を批判したために天保8年（1837）4月

に能登島^{はちがさき}ハケ崎^{るけい}に流刑となった（江戸時代には能登島は加賀藩政上失態のあつた武士の流刑地だった）。配所での生活を『島ものがたり』^{あらわ}に著すなど、書画に秀でた文人でもあった。描いた絵画は、金沢市の武家屋敷寺島蔵人邸（大手町／金沢市指定史跡）で一般公開されている。

【柴田真次】^{しばたしんじ}／安政4年（1857）田鶴浜に生まれ、宮大工の棟梁として曹洞宗大本山總持寺（横浜市鶴見区に所在。明治44年（1911）に当時の門前町^{うつ}から遷った）の紫雲台・總持寺祖院（輪島市門前町^{しゅうんたい}）太祖堂^{たいそどう}と山門など、市内外の寺社建築に多大な足跡を残した。昭和15年（1940）82歳で死去。田鶴浜町に顕彰碑が建てられている。

【ハリー・パークス】／イギリス公使。慶応3年（1867）7月8日所口湊（七尾港）を開港させるために外交官ミットフォードとアーネスト・サトウとともにバジリスク号・サラミス号・サーペント号の3艘の船で入港。加賀藩の役人と会談したが良い返事がもらえず、3日後の11日に七尾を去った。書記官のミットフォードは『英国外交官の見た幕末維新』（講談社1998）で、当時の七尾や金沢の様子を記している。

【アーネスト・サトウ】／イギリスの外交官で、パークスに同行した通弁官。『一外交官の見た明治維新』（岩波書店1960）を著し、当時の七尾周辺域の様子を記している。

【春木屋藤兵衛】^{はるきやとうべえ}／七尾所口の蔵宿などを務めた商家。明治元年（1868）に能登島の向田で“春木屋新開”と呼ばれる新田の開発を始めた。檜物町の春木屋デパートは、七尾で初めてのデパート。

【湯本求真】^{ゆもときゆうしん}／明治9年（1876）崎山村鶴浦に生まれ、漢方医学の専門書^{こうかんいがく}『皇漢医学』を著し、漢方医学の復興と存続に大きな役割を果たした。鶴浦町法広寺に顕彰碑が建っている。

【米谷義松】^{こめたにぎまつ}／大正から昭和初期にかけて中島村長を20年間務める。大正2年（1913）に石川県初の「中島水道」を整備した。他にも耕地整理や道路拡張・鉄筋コンクリートの橋を架けるなど、近代的な施政を推し進めた。中島市民センター前に銅像が建っている。

【橋本次六】^{はしもとじろく}／嘉永5年（1852）中島村生まれ。初めは教員・村戸長を務め、明治22年（1889）から同24年まで県会議員、明治25年2月15日の第2回衆議院議員選挙に初当選。議員在職中も地方に関わる公務に携わり、

地域産業の発展に尽力した。昭和4年（1929）1月5日自宅で死去。享年78歳。

【室木弥八郎】^{むろき やはちろう}／嘉永6年（1853）外村^{そで}生まれ。明治4年（1871）外村庄屋、同6年区戸長。明治17年（1884）から3期県会議員を務め、その他聯合^{れんごう}会村会議員10数回・鹿島郡会議員、また銀行の要職を歴任した。明治35年（1902）8月10日第7回衆議院議員選挙に初当選。明治36年2月8日死去。享年51歳。

【室木弥邇郎】^{やじろう}／弥八郎の息子。明治15年（1882）10月16日生まれ。大阪地方裁判所判事・弁護士を経て、大正4年（1915）3月25日の第12回衆議院議員選挙に初当選。その後も弁護士を務めながら地方の公職を歴任した。昭和48年（1973）中島町外において死去。

【大森玉木】^{おおもりたまき}／明治19年（1886）3月生まれ。昭和5年（1930）から県議会議員。昭和22年（1947）の第23回衆議院議員選挙で初当選。民主党代議士会長・自由民主党両院議員総会副会長・衆議院懲罰委員長・北海道開発政務次官を歴任。6選を果たした後、昭和39年（1964）2月78歳で死去。

【神野良】^{かんのりょう} ^{さんし}／県蚕糸業取締所会頭、鹿島銀行頭取、七尾鉄道株式会社取締役、七尾港貿易同盟会長などを兼ね、県議会議員6期。明治23年（1890）7月1日の第1回衆議院議員選挙石川3区で当選。

【津田嘉一郎】^{つだかいちろう}／海運業を営み、明治27年（1894）9月1日の第4回衆議院議員選挙石川3区で当選。

【戸部良祐】^{とべりょうすけ}／県議会議員を3期務め、在郷軍人分会長、能登^{わら}藁工品同業組合長などを歴任し地方振興に努め、昭和5年（1930）2月20日の第17回衆議院議員選挙（第2回普通選挙）当選。昭和9年（1934）12月に59歳で死去。

【益谷秀次】^{ますだにしゅうじ}／明治21年（1888）1月 鳳至郡宇出津町（現・鳳珠郡能登町）生まれ。司法官を務めた後、大正9年（1920）5月の第14回衆議院議員選挙に石川5区から出馬し32歳で初当選。昭和5年（1930）七尾町に移住し、第32回総選挙まで計14回当選した。その間、自由民主党の幹事長・総務会長・内閣の建設大臣・副総理、国会で衆議院議長を歴任した。昭和48年（1973）8月に85歳で死去。

【はたけやまいっせい 畠山一清】／明治14年（1881）生まれ。能登畠山氏しりゅうの支流・松波畠山氏えばらの末裔で、荏原製作所そくおうの創業者。雅号・即翁。昭和17年建立の「七尾城址」碑の揮毫者。能楽や茶の湯を嗜み、茶道具を中心とした美術品を収集した近代を代表する数寄者。収集品は現在、畠山記念館に展示されている。昭和46年死去。

【ふじさわせいぞう 藤澤清造】／明治22年（1889）生まれ。小説家。平成23年（2011）7月に初めて文庫化された『ねづごんげんうら 根津権現裏』などの作品がある。性格上からくる不適切な言動から、作家としての師や仲間と度々衝突するなど、私生活上は不遇だった。昭和7年（1932）1月29日に東京の日比谷公園で凍死。生家の菩提寺である西光寺（小島町）では、命日の1月29日に「せいぞうき 清造忌」（平成13年（2001）に芥川賞作家の西村賢太氏が西光寺に申し入れて始められた）が行われる。

【すぎもりひさひで 杉森久英】／明治45年（1912）生まれ。以前は一本杉町在住。美川町（現・白山市）出身の大正期の流行作家・島田清次郎の生涯を描いた『天才と狂人の間』で昭和37年（1962）に第47回直木賞受賞。また、『天皇の料理番』は平成27年（2015）に3回目のテレビドラマ化がされた。

【かわらつとむ 瓦力】／石川県立七尾高等学校・中央大学法学部卒。益谷秀次元衆議院議長の秘書から後継となり、昭和47年（1972）の第33回衆議院議員選挙で初当選。計12期務め、その間、防衛庁長官2度、建設大臣、衆議院建設・大蔵委員長、国会対策委員長を歴任。平成21年（2009）引退、同年11月旭日大綬章。平成25年1月13日死去。新七尾市2人目の名誉市民となる。

【わじま 輪島】／石崎町出身の力士。名前は大士。本名は輪島博。第54代横綱。横綱時代の勝ち星は466勝。平成30年10月8日死去。

【ますだやま 舁田山】／和倉町出身の力士。元関脇。現役引退後、ちがのうら 千賀ノ浦親方を襲名しその後千賀ノ浦部屋を創設。平成28年（2016）4月に、常盤山親方を襲名して部屋付親方となる。同部屋に所属する力士は舁乃山やハンガリー出身の舁東欧など10人ほどいるが、七尾市出身の能登ノ波は平成22年（2010）4月にしこな 四股名を鯉の里に改名した。その後、平成28年12月に鯉乃里と改名した。

【とちのなだ 栃乃洋】／石崎町出身の力士。本名は後藤泰一。元関脇。石川県立七尾商業高等学校・拓殖大学を経て角界入り。平成8年（1996）初場所に幕下付け

出で初土俵。平成9年（1997）夏場所に新入幕。歴代2位となる12個の金星（横綱に勝った数）を獲得した。現在、竹縄たけなわを襲名し、親方として後進の指導にあたる。

【輝】かがやき／石崎町出身の力士。本名は達綾哉。平成30年（2018）9月場所の番付は前頭6枚目となっている。得意技は突き・押しである。

【角中勝也】かくなかかつや／プロ野球選手。田鶴浜中学校・日本航空第二高等学校を卒業後、四国アイランドリーグを経て千葉ロッテマリーンズに入団。平成24年（2012）にパリーグのペナントレースで打率0.312を記録し、首位打者を獲得した。平成25年第3回WBC（ワールドベースボールクラシック）代表に選ばれ、2番・指名打者で先発出場。

【辻口博啓】つじぐちひろのぶ／日本の誇る代表的パティシエ（洋菓子職人）。昭和42年（1967）に馬出町にあった和菓子店「紅屋」べにやの3代目として生まれる。石川県立中島高等学校卒業後、18歳で上京。国内の洋菓子大会で優勝し、フランスのラングドック地方などで修業する。国際コンクール・世界大会に日本代表として5回出場し、「クープ・ド・モンド」などで優勝を果たす。修業地にある場所の名前を採り平成10年（1998）に東京・自由が丘で洋菓子店「モンサンクレール」、平成14年（2002）に「自由が丘ロール屋」を開店した。平成18年（2006）4月に斬新な構想のもと辻口博啓美術館「ル ミュゼ ドゥ ア ッシュ」が和倉温泉に開館。また、「SUPER SWEETS SCHOOL 自由が丘」校長、学校法人国際ビジネス学院が経営する「スーパースイーツ製菓専門学校」（金沢市南町）校長として指導にあたる。日本スイーツ協会代表理事。東京都在住。

兼六園の雪吊りから着想し、地元の食材をふんだんに使いフランスの伝統菓子・サクリスタンのように焼き上げた、平成21年（2009）から販売している「YUKIZURI」は「全日本隠れたお土産お菓子グランプリ」第1位に輝いた。種類にはオリジナル・いちごのほか、期間・季節限定でショコラ・ゆず・サクラ・ブルーベリー・ルビーロマン、数量限定で金箔を販売している。平成25年（2013）2月に売上げ100万箱を達成した。その売上げを氏が主催する絵画コンクール「辻口博啓 夢プロジェクト」の運営資金に充てるなど、芸術分野全般の教育に力を注いでいる。

【西村賢太】にしむらけんた／小説家。東京都出身。藤澤清造の没後弟子を自認し、平成2

3年（2011）1月に『^{くえき}苦役列車』で、第144回（平成22年度下半期）芥川賞を受賞した。本作品は平成24年7月に映画化され、元AKB48の前田敦子が出演したことで話題になった。平成24年3月には『藤澤清造短編集』を^{あんきよ やど}発刊した。他の作品に『^{ひと}暗渠の宿』『一夜』『どうで死ぬ身の一踊り』などがあり、七尾市のことが出てくる。

【^{あ べりゆうたろう}安部龍太郎】／昭和30年（1955）福岡県生まれ。平成2年（1990）作家デビュー。主な作品に『天馬翔ける』『信長燃ゆ』『レオン氏郷』『^{そうろう}生きて 候』などがある。平成23年（2011）1月から同24年（2012）5月まで日本経済新聞の朝刊に掲載された小説『等伯』で、直木賞を受賞した。平成25年7月18日には県観光大使を委嘱される。

【^{みやしたひでき}宮下英樹】／七尾市出身の漫画家。相撲を題材にした「^{たけ}ヤマト猛る」、戦国時代から江戸時代初期の武将・^{せんごくごん べえひでひさ}仙石権兵衛秀久を主人公にした「センゴク」などの作品で、一躍有名になる。

【^{のぎざかたろう}乃木坂太郎】／七尾市出身の漫画家。作画の「医龍—Team Medical Dragon」は、テレビドラマ化されている。

【^{かとうときこ}加藤登紀子】／『知床旅情』『百万本のバラ』などがヒットした歌手。平成25年2月3日に「七尾ふるさと大使」に任命された（更新により任期は平成30年（2018）3月末まで）。能登の里山里海についての講演も多数行っている。

【^{もりやじゅんこ}守屋純子】／ジャズピアニスト、作曲家。平成21年（2009）に石川ジュニアジャズアカデミー（IJJ A）の音楽監督に就任。平成24年 第24回モンレージャズフェスティバル in 能登で、長谷川等伯の国宝・楓図をイメージした「メープル」を披露し、平成25年8月24日に、それと「^{こぼくえんこうす}モンキーズ イン ウィザードツリー（古木猿猴図）」「ニルバーナ（仏涅槃図）」「パイソツリーズ（松林図屏風）」を併せた「等伯組曲」を発表した。

【Vox of Joy】／平成14年（2002）5月に県内在住者を中心に結成されたゴスペルのコーラス団体。

【猫十字社】／漫画家「猫十字社」よりユニット名の使用許可を得て、平成16年10月より活動開始。七尾市出身のボーカル^{ちあみ}Chiamiとキーボード^{もとひさ}Motohisaの男女2人のユニット。Chiamiが幼少時代を過ごした能登の美しさをPRする活動に力を入れており、能登の里山里海のイメージソングや七尾を

のゆるキャラソング等を手掛ける。

【菜々緒】^{な な お}／タレント。名前が七尾の読みと同じなので、平成24年(2012)に「七尾ふるさと大使」を務めた。

【甲斐智美】^{か い ともみ}／七尾市出身の女流棋士。平成29年9月現在のタイトル獲得は、女王1期、女流王位4期、倉敷藤花2期、一般棋戦2期である。

(祭礼)

青柏祭・熊甲二十日祭・能登島向田の火祭・石崎奉燈祭を七尾四大祭と呼んでいる。

[曳山祭り]

【青柏祭の曳山行事】^{せいはいくさい ひきやまぎょうじ}(七尾市街地)／青柏祭は、本来「あおかしわのみつり」と言い、山王町に鎮座する大地主神社^{おおとこぬしじんじや}の春の例大祭^{れいだいさい}である。名称は、青い柏の上に神饌^{しんせん}を盛^{そな}ってお供えし、世の中の平穏や豊作・豊漁などを祈願^{みなもとのしたごう}することによって由来する。その起源は、平安時代の天元4年(981)に能登国司・源順が「国祭り」と定めたのが始まりと伝える。

5月2日に小島町三丁目の唐崎神社近くの紅葉川でお水取りがあった後、13時から同神社で神事が行われる。同日の夕方に人形見。そして、“でか山”と呼ばれる高さ12m・重さ20トン・車輪の大きさが2m(車輪1個の重さ2トン)ある曳山は、3つの山町が準備し、3日の21時に鍛冶町(山紋は「丸に山文字」)の宵山^{よいやま}、4日の1時に府中町(山紋は「右三つ巴」)の朝山、4日の8時に魚町(山紋は「二引き両」)の本山の順に曳き出され、4日正午から大地主神社で行われる本儀^{ほんぎ}・奉幣^{ほうへい}の儀^ぎに奉納される。

平成元年(1989)まで、祭りの行われる日は5月13日から15日までだったが、現在は連休に合わせて5月3日から5日にわたって高さ約12mの“でか山”と呼ばれる曳山が七尾市街地を巡行し、街は熱気に包まれる。大梃子^{おおてこ}を使った“辻回し”^{き(け)や うた}や木遣り唄・七尾まだらの演舞など多くの見せ場がある。昭和58年(1983)1月11日国指定重要無形民俗文化財。

平成28年(2017)12月1日に青柏祭の曳山行事が、ユネスコ(国連教育科学文化機関)の無形文化遺産に登録された。青柏祭の曳山行事を含む、全国33件の重要無形民俗文化財に指定されている祭礼行事が、「山・鉾・屋台行

事」としてグループ登録された。

【住吉大祭】^{すみよしだいさい}（田鶴浜町）／4月の第4土曜日に本祭りが行われる住吉神社の春の例大祭で、長連龍が田鶴浜に入った時、住人が京都祇園の曳山をまねて祝ったのが始まりと言われる。前日には宵祭りがある。田鶴浜町内にある殿町・上野ヶ丘・西町・中町・東町・登町の各町から合わせて6基の高さ5mの曳山が出され、ヨイヨイの掛け声とともに町中を巡行する。曳山に載っている「からくり人形」も趣がある。

【曳山奉幣祭】^{ひきやまほうへいさい}（七尾市街地西部）／4月上旬に行われる能登生國玉比古神社^{のといくくにたまひこ}の春の例祭。「チャンチキ山祭り」とも言い、^{こめ（こん）}米町・阿良町・亀山町・一本杉町・木町・生駒町の6町会から出される曳山は「ちょんこ山」と呼ばれている。これまで一本杉町のみ、祭り囃子の「しゃぎり」を子供が演奏していたが、生駒町でも復活した。

^{わくばた}
[杵旗祭り]（中島地域）

^{くまかぶとはつかまつり}
熊甲二十日祭の杵旗行事（国指定重要無形民俗文化財）・^{しんぐう（しんご）}新宮祭の杵旗行事・^{ろっほまつり}六保祭の杵旗行事（市指定無形民俗文化財）・笠師祭の杵旗行事・4つの杵旗行事があり、このうち、笠師祭が一番早い時期に行われる。

【熊甲二十日祭の杵旗行事】（中島町宮前）／朝鮮半島の渡来神を祀る^{くまかぶとあらかしひこ}久麻加夫都阿良加志比古神社で毎年9月20日に行われる秋の例大祭で、「お熊甲祭」又は「二十日祭り」と一般に呼ばれている。^{とぎよ}渡御順序を決める9月6日のシライというくじ引きから始まり、19日は奉幣迎え、祭り当日は久麻加夫都阿良加志比古神社に19の末社から長さ20mを超える杵旗や神輿等が参集するが、瀬嵐地区では、熊木川の下流まで舟に神輿や杵旗を乗せている。道中は本社・末社の猿田彦と呼ばれる天狗の役が面を被り、^{めんぼう}面棒を持って、^{かね}鉦・太鼓のなる中を先導する。

神事が終わった後700m離れた御旅所の加茂原で、^{おたびしよ}反時計回りに3回廻る。^{ちょうだい}長大な杵旗を担ぎながら地面すれすれまで傾ける“島田くずし”と呼ばれる妙技も披露される。昭和56年（1981）1月21日国指定重要無形民俗文化財。

【新宮祭の杵旗行事】^{しんぐう}（中島町藤瀬）／藤津比古神社の秋の例大祭。以前は9月15日に行われていたが、平成16年（2004）から9月23日に変更となった。6つの末社から神輿と杵旗が7本、藤津比古神社に参集し、神事が行わ

れた後、御旅所の水みすおとし落まで練り歩く。平成7年（1995）6月28日町指定無形民俗文化財（現市指定）。

[火祭り]

【能登島向田の火祭】（能登島向田町）／伊夜比咩神社いやはひめの夏の例祭（納涼祭）。毎年7月31日に行われていたが、平成16年から7月の最終土曜日に行われるようになった。崎山の干場ほしばという広場で、高さ13メートル余りの大木を心柱しんばしらとして周囲に約800束の柴しばで覆い、心柱の上に青竹をさし。その先端に御幣をつける。伊夜比咩神社での神事後、大小7基の奉燈を従えた神輿が行灯250個ほどの並ぶ沿道を勇壮に練り、干場に着くと、柱松明の周りを若衆が7回廻りながら、手松明を柱松明に投げつける。柱松明が海側に倒れたら豊漁、山側に倒れたら豊作と言われ、柱松明が炎上し、倒れた心柱の先端の焼け残った御幣を争奪する。柱松明は次の年も使うので、池に保管される。昭和62年（1987）2月13日県指定無形民俗文化財。

[奉燈祭り]

7月から8月にかけて各地で行われる夏祭りのうりようさい（納涼祭）で、「おすすみ」と呼ばれている。

【印鑰神社納涼祭】（府中町）／互市祭りこいちとも称され、もとは7月1日に執行されていたが、平成7～8年ごろから7月第1土曜日に変更された。大小11基高さ5～6mの奉燈と山車が、掛け声とともに練り回る。本来は露店に飴が売られたので飴祭りと言われたが、祭礼の時期には雨が多いことから「雨祭り」「ばんど祭り」などと称され、または暑い時期でもあり、素麺を食べることから「素麺祭り」などとも称される。

【大地主神社納涼祭】（七尾市街地東部）／「七尾祇園祭」「東のお涼み祭り」とも称され、毎年7月8日に執行されていた。平成12年（2000）より7月第2土曜となった。平安時代に始まったとされ、大小11基の奉燈が出され、湊町西浜の仮宮で清祓いが行われる。祭礼の「祭り触れ」として子どもらが一斗缶を叩きながら「ワッショ、ワッショ」の掛け声とともに町内を練り歩く。

【気多本宮の夏祭り】（七尾市街地西部）／能登生國玉比古神社のといくくにたまひこの納涼祭で、「西のお涼み祭り」「夏越祭なごし」とも称される。三島町に仮宮を建てて清祓いが行

われる。本来は毎年7月31日に執行されていたが、近年は7月の最終土曜日に行われる。

【阿良加志比古神社納涼祭】(山崎町) / 山崎のお涼み祭りとも称される。もとは7月15日の祭礼日とされていたが、近年は7月第4土曜日に執行されている。神輿は山崎町や花園町を経て東浜町の海岸に設けられたオタヤ(オハマ)まで巡行する。各町内からは重箱に白米を盛り上げ、その上に賽銭を包んだ和紙を立てた神供米(オハナイ)を持ち寄る。

【石崎奉燈祭】(石崎町) / 8月第1土曜日に行われる石崎町の八幡神社の納涼祭。度重なる大火のため、明治22年(1899)に綱すき(綱大工)の口添えにより奥能登から古いキリコを移入して始められたという。それ以前は、祇園系の山車だったといわれる。平成7年(1995)までは、月の満ち欠けが漁に影響するとされ旧暦(太陰太陽暦)の6月15日に行われていた。

大奉燈は高さ12~15m・1基の重さ2トンあり、100人ほどで担いで勇壮に練り回る。昔は6基だったが、現在は区が増えて7基。但し、西三区の奉燈は前夜祭のみ和倉温泉駅前を巡行。

東一区 文字「魚満浦」・「緑」
東二区 文字「満年楽」・「黄」
東三区 文字「志欲静」・「赤」
東四区 文字「智仁勇」・「青」
西一区 文字「襲銀鱗」・「白」
西二区 文字「満祥雲」・「桃」
西三区 文字「慶雲飛」・「紫」

- 町内カラーは、左記のとおり
- 大奉燈に書かれる文字は各地区が所有する2~3種類の中からその年の支部長が決めるが、主な文字は左記の通り

【松尾神社納涼祭】(所口町) / もと七尾町入り口にあった神明社(旧社地は現興能信用金庫七尾支店)の納涼祭。所口町に移転した現在でも、8月23日に旧社地にて神事が執行される。かつては馬出町附近の御祓川へも入ったといわれている。

【塩津のおすすみ祭り】(中島町塩津) / 「塩津かがり火恋祭り」とも呼ばれ、7月第4土曜日に行われる。女神の唐島神社・男神の日面神社が年に一度の逢瀬を楽しむという。平成7年(1995)6月28日町指定無形民俗文化財(現市指定)。

【鉋打のおすすみ祭り】(中島町藤瀬) / 8月14日に行われる。現在も蠟燭

の明かりで奉燈を灯している。昭和53年（1978）5月12日町指定無形民俗文化財（現市指定）。

【六保のおすすみ祭り】（中島町豊田町）／7月最終土曜日に行われる。平成7年（1995）6月28日町指定無形民俗文化財（現市指定）。

[獅子舞]

【三引町の獅子舞】／赤倉神社の春秋の祭礼で、爺面じじめんと婆面ばばめんがより棒・なぎなた・大刀の三番勝負した後に獅子に挑む特色ある獅子舞。平成16年（2004）9月20日町指定無形民俗文化財（現市指定）。

【能登島の秋祭り】／9月第3日曜日から10月19日にかけて順番に各集落で行われる。能登島向田町から始まり、能登島別所町で終わる。各集落には、獅子舞の他に「にわか」と呼ばれる踊りがあり、能登島野崎町では稲の収穫作業をまねた豊年踊りが披露される。

[その他の重要な習俗]

【気多の鶺鴒祭の習俗】（鶺鴒浦町）／一般には「鶺鴒祭」と言う。12月12日早朝に、鶺鴒捕主任うとりしゅにん・小西家が鶺鴒捕崖うとりがけで捕獲した“鶺鴒様”と呼ばれる1羽の鶺鴒（ウミウ）かごを駕籠に入れて鶺鴒浦町を出発した3人の鶺鴒捕部うとりべは、40km余りの道のりを歩く。まず、12日の昼に七尾市街地の春成酒造店で休憩する。そして、14日夕方に気多神社に到着。16日午前3時過ぎに神事が厳おごそかに行われる。平成12年（2000）12月27日国指定重要無形民俗文化財。

【能登の諏訪祭りの鎌打ち神事】（江泊町日室）／中能登町の金丸の鎌宮諏訪神社・同町藤井の住吉神社とともに、8月27日に行われる、風鎮祭。七尾市では「日室の鎌祭かままつり」と呼ばれ、嵐に遭わないよう豊漁を祈願する。諏訪神社で神事が終わった後、神木のタブノキしんぼくに、魚をかたどった雄鎌おがまと雌鎌めがまの二挺ちよう一対ついでの鎌を打ち込む。平成4年（1992）10月20日県指定無形民俗文化財。

【田鶴浜の左義長】／毎年2月の第2土曜日・日曜日に行われる。御幣を付けた竹に「くさ」と呼ばれる笠や扇子などとともに各家庭に用意してもらった五色の紙で作った飾り「御赦免ごしゃめん」が吊るされる。平成16年（2004）9月20日町指定無形民俗文化財（現市指定）。

【七尾豊年太鼓】／能登各地に伝わる豊年太鼓は、日照りの日が続いた時に

雨乞い祈願して打ち鳴らしたことが起源とされる。太鼓の他にもかね鉦を叩く。昭和48年（1973）7月25日市指定無形民俗文化財。

【平国祭】／「おいで祭り」とも言い、羽咋市寺家町のしげまち気多神社（気多大社）の祭神・おおくにぬしのみこと大国主神が邪神を退治してしんめ邑知平野を平定したという伝承に由来する。3月17日に神馬が気多神社に到着した後、神馬を先頭に3月18日から23日までの6日間、気多神社から能登生國玉比古神社（気多本宮）までを含め、おうちていちたい邑知低地帯周辺にある志賀町・羽咋市・中能登町・七尾市の2市2町を神輿の行列が往来する。

【小牧・外の虫送り】／6月第2土・日曜日に中島町小牧と中島町外の合同で行う江戸時代から続く農耕儀礼で「出会いの虫送り」とも言う。約2km歩く。

【ぼんぼらがい（もくれんぞんじゃ山崎の目連尊者の地獄めぐり）】／山崎町に伝わる盆踊り。前唄の「ぼんぼらがい」と本唄の「目連尊者の地獄めぐり」の二段構成が特徴。「ぼんぼらがい」は、田んぼに住む貝の中身が空になったものを指すといわれる。平成29年（2017）3月29日市指定無形民俗文化財。

（民謡）

【七尾まだら】／能登地方に伝わる舟乗りの祝儀唄「まだら」は、海上交通によってもたらされ、語源は九州のまわたり馬渡島・魚の名・梵語のまんだら曼荼羅、漁村の晴着などの説がある。昭和3年（1928）に4拍子に統一、翌年三味線の伴奏が加わり、昭和8年（1933）に踊りの振付けが加えられた。青柏祭などの祭礼や結婚・新築などの祝宴は元より宴会でも中締めとして唄われる。「輪島まだら」「輪島崎まだら」とともに「能登のまだら」として昭和41年（1966）7月8日県指定無形民俗文化財。

（伝統工芸）

【七尾仏壇】（七尾仏壇協同組合）／七尾仏壇は昭和53年（1978）7月、国の伝統的工芸品に全国10番目に指定された。石川県内では他に金沢・美川、富山県では高岡が主要製作地。中でも七尾仏壇は、けんろう堅牢かつごうか装飾が豪華と言われている。

【田鶴浜建具】（田鶴浜建具工業協同組合）／加賀八家・長家の城下町とも言

うべき田鶴浜町で、江戸前期に始まった。現在、県内の他に富山県・滋賀県や愛知県など中京方面に販路を広げている。作品の粋を一堂に集めた「田鶴浜建具センター」が、昭和54年（1979）に建てられたが、平成18年（2006）3月31日に閉館した。

【七尾和ろうそく】（一本杉町 高澤ろうそく店）／蠟ははぜの実などから採取し、芯に和紙を使っている。手掛製法の良さを伝え、風^{てがけ}に強く、品質は堅く油煙の出が少ない、安定したともれが特長。

（伝承技術）

【丸木舟製作技術】／丸太を^く割りぬいて造る古代の造船技術を受け継いでおり、瀬嵐の丸木舟は板の組み合わせでつくられる。全体的に丸みが少なく船底が平らなのが特徴である。昭和47年（1972）3月23日町指定無形文化財（現在市指定）。

（ゆるキャラ）

県内では、50体以上のゆるキャラが活躍している。ここでは、地元が生んだ楽しい仲間たちを紹介しよう。

【和倉温泉わくたまくん】（和倉温泉観光協会）／和倉温泉の愛すべき“ゆるキャラ”で、温泉が海から湧き出ていることを教えてくれた白鷺が産んだ「たまご」。オレンジ色のバックに三つ子の温泉卵を入れて、いつも一緒に遊んでいる。

誕生日は平成20年（2008）10月10日で、血液型は“たまご型”、好きな飲み物は和倉温泉の温泉水、特技は、温泉たまご作りです。住所は、もちろん和倉温泉だよ。

【とうはくん】（七尾市）／長谷川等伯没後400年記念キャラクター。

吾が輩は、市民の方にもっと作品を見てもらいたくて、いろんなところを旅しておる。わしを見かけたら声をかけてくれ。待っておるぞ。

【のとカッキーくん】（能登鹿北商工会）／「七尾湾能登かき祭」のマスコットキャラクターとして誕生。“元気・活気・カッキー”をキャッチフレーズに、能登かきを食べてもらうため駆け回っている。

誕生月は平成22年（2010）1月生まれ。血液型は“かき型”、好きな食べ

物・飲み物は“七尾湾のおいしい恵み”。特技の「栄養満点ビーム」でみんなを元気にするよ。住所は・・・もちろん七尾湾だ！

(交 流)

【丸亀市まるがめ（親善都市）】／香川県北部に所在し、団扇うちわ生産量では全国の80～90%を占める。人口11万人。昭和47年（1972）5月の「お城まつり」に七尾豊年太鼓が出演したことがきっかけで、七尾市との交流が始まり、昭和49年（1974）11月1日に親善都市となった。名物の讃岐うどんは全国的に有名で、また、曲線美が美しい立派な石垣をもつ丸亀城は、七尾城と同じく平成18年（2006）に日本100名城に選定されている。骨付鶏（鶏もも肉を丸ごとスパイシーに焼き上げる）発祥の地でもある。

【ブラーツク市（姉妹都市）】／ロシア連邦の都市。人口約26万人。産業はアルミニウム・木材。昭和45年（1970）12月11日に締結。

【金泉市（姉妹都市）】／韓国・慶尚北道の市。人口約13万6,000人。産業は生糸・軽工業。特産物のぶどうはマスコットキャラクターにもなっている。昭和50年（1975）10月16日に締結。

【大連市金州区（友好都市）】／中華人民共和国の都市に属する区。人口約110万人。産業は機械化学工業。昭和61年（1986）4月13日締結。

【モンレー市（姉妹都市）】／アメリカ合衆国カリフォルニア州に属する、港のある市。人口約3万人で観光業が盛ん。平成7年（1995）12月5日に姉妹都市となった。

【モーガンタウン市（姉妹都市）】／アメリカ合衆国ケンタッキー州の市。人口約2,500人。産業は繊維・プラスチック・ゴムを主体とする。田鶴浜地域にある電気機器のワイヤーハーネスなどを製造するグループ企業の交流が縁となり、平成4年（1992）8月1日に当時の田鶴浜町と締結。

【飯山市いいやま】／長野県の市。北陸新幹線延伸を控え、沿線都市相互で観光情報を共有し、観光プロモーション活動の支援と協力を行うことで、交流人口の増加および地域経済の活性化を図るべく、平成25年（2013）2月20日に「観光交流都市協定」を締結。

【越前市えちぜん】／福井県の市。平成23年（2011）10月14日に「災害時相互応援協定」を締結。七尾市と同じく古代の国府所在地で、前田利家が能登に

入る前に城主だった府中城（旧・武生市）があるなど共通点がある。

【郡上市】／岐阜県の市。海の無い県ということで、数年前から中学生が能登島で教育旅行を行っている。平成22年（2010）9月4日に「教育・文化・観光等の交流推進に関する覚書」を交換した。郡上踊りでも有名。

【魚津市】／富山県の市。平成9年（1997）5月14日に「災害時相互応援協定書」を締結。富山湾に蟹気楼が見える観光スポットをもつ。また、市の木が七尾市と同じ「松」という共通点がある。

【氷見市】／富山県の市。昭和54年（1979）7月17日に「近隣市町村防災協力体制協定書」を締結（中能登町と同日）。「寒ブリ」や「氷見いわし」などの魚が水揚げされる氷見漁港をもつ。

【中能登町】／石川県の町。昭和54年（1979）7月17日に「近隣市町村防災協力体制協定書」を締結（富山県氷見市と同日）。七尾市と隣接した町で、「ふるさと ふれあい 心を育む 中能登町」の基本理念を掲げている。

（民 具）

現在では、生活する上で殆ど使われなくなった昔の道具類を指すが、市内でも昭和30年代まで普通に使われていた物である。それらは、服装・調理・食膳・遊戯・乗物・祭具など、衣食住のあらゆる分野に及んでいる。

ここでは、その顧みられなくなった道具たちを一部紹介しよう。

[衣食住]

【衣】

ばんどり／蓑 晩に飛ぶ「むささび」に似ているところから晩の鳥（ばんどり）というようになった。

かんじき／泥上、雪上など不安定な地面を歩くための民具。

草鞋／現在の靴が無かった時代、稲藁で作った草履。

鋸／「がんど」と呼ばれる大型のものもある。

【食】

井戸・水樽・へっつい・石臼、木臼・はんそう

釜、鍋／現在のものより、大きくて重い。

弁当箱／大きな木製の箱。

はこぜん ひきだし
箱膳／抽斗に食器を収納できるようになっている。

【住】

あんどん
行燈（行灯）／電気の無い時代、部屋を明るくする道具として使われていた。

いろり ろうそくた あんか
囲炉裏・蝋燭立て・ランプ・行火・火鉢

つぶら（いずみ）／赤ちゃんを入れていた籠。^{かご}

手鏡・台枕・算盤・硯・筆・ラジオ

こて ひのし
鑊、火熨斗／中に火種を入れて使ったアイロン。

（方 言）

今では、あまり使われなくなったが、基本的なものを紹介しよう。

- ・あだける・・・騒ぐ
- ・あらかち・・・彼ら
- ・あんか・・・長男、兄
- ・あんさま・・・他人の兄、婿
- ・あんにゃま・・・姉、嫁
- ・いきり・・・威勢がよい
- ・えんぞ・・・どぶ
- ・えんね・・・縁側
- ・おえ・・・茶の間
- ・おじ・・・次男、弟
- ・おぞい・・・品質が悪い、みすぼらしい
- ・おつけ・・・味噌汁
- ・おっさま・・・他人の弟
- ・お一どな・・・横着な
- ・おまっ（い）ちゃ・・・お前たち
- ・おもや・・・本家
- ・おやっさま・・・他人の主人
- ・おんつ・・・雄
- ・かいや〇〇・・・ひどく、すごく
- ・〇〇がいや・・・〇〇ではないか。
- ・かーか・・・母、嫁
- ・かつける・・・投げつける
- ・がっぱになる・・・必死になる
- ・かやる・・・転倒する
- ・がわぐさい・・・大げさな
- ・かんしょ（ば）・・・便所
- ・きなるい、けなるい・・・うらやましい
- ・ぎゃっと・・・蛙
- ・けたくその悪い・・・気分が悪い
- ・こべ・・・幼い子供、ひたい
- ・こんか・・・ぬか（米糠）^{こめぬか}
- ・在所・・・村
- ・ざま・・・姿
- ・しょうもない・・・つまらない
- ・しんしょ・・・財産（身上）^{しんしょう}
- ・〇〇せいま・・・〇〇しなさい。
- ・せど・・・家の裏（背戸）^{せど}
- ・たいしょう・・・彼
- ・たいそい・・・疲れた、苦しい
- ・だちゃかん・・・駄目
- ・だんだん・・・風呂〈幼児語〉

- だんない・・・・・・・・かまわない • だんなさま・・・金持ち
- ちょこ・・・・・・・・幼い女の子 • ていぼう、てーぼ・・・杖
- てきない、ちきない・・・疲れた、苦しい
- ドーサメ・・・・・・・・土砂降りの雨 • にんがしい・・・・・・・・にぎやか
- ねこ・・・一輪車（手押し車）
- はいだるい・・・つまらない、おもしろくない、じれったい
- はしかい・・・・・・・・①利口である、②（体が）痛がゆい、または、むずがゆい
- ひねくらしい・・・・・・・・大人びている
- ぼう・・・・・・・・追いかける • ぼうぼう、ぼーぼ・・・魚
- ぼんち、ぼん・・・お金持ちの息子 • にゃにゃ・・・・・・・・姉
- ねんね・・・・・・・・赤ちゃん • まま・・・・・・・・ご飯
- まんで〇〇・・・ひどく、すごく • まんぽ・・・・・・・・トンネル
- めんつ・・・・・・・・雌 • やうち、やおち・・・・・・・・親戚、親類
- よさり、よんべ・・・夜 • よぼる・・・・・・・・呼ぶ
- わりゃ・・・・・・・・お前 • わ（や）ろう・・・・・・・・男